

令和 6 年 度
(令和 5 年度事業対象)

桶 川 市 教 育 委 員 会
点 検 評 価 報 告 書

令和 6 年 1 1 月
桶川市教育委員会

あいさつ

令和5年度は、「桶川市教育大綱」を改定し、掲げた基本理念や基本方針に基づき、その施策・取組を具現化するための計画として、新たに「桶川市教育振興基本計画」を令和6年3月に策定しました。この計画については、各取組の進行管理を行い、その結果を公表するとともに、社会変化に対応した事業の見直しを行ってまいります。

この点検評価報告書は「桶川市教育振興基本計画」に掲げる6つの基本方針と20の施策を実現するために実施した47の主な取組について、令和5年度に実施した事業を教育委員会が自ら点検し、評価を実施した報告書となります。

主な取組としましては、近年の猛暑に対応するため、小学校4校の体育館に空調設備設置を完了したことや、情報化社会に対応するため、ICTを効果的に活用した授業の推進などがございます。また、生涯学習センターの改修工事を実施し、本年4月に歴史民俗資料館をリニューアルオープンしております。

本報告書については、「桶川市教育振興基本計画」の策定に伴い自己点検評価シートの様式を大幅に見直し、見やすさ、分かりやすさを工夫しました。具体的には、1つの取組に対し1つのシートにまとめるように統一するとともに、AからDまでの4段階で評価を行うことといたしました。

新たなシートでは、「取組状況」、「成果」、「課題」、「課題に対する次年度以降の取組方針」を整理し、成果を高め、次年度以降の課題の解決に向けた取組につなげていくものとなります。なお、図表やグラフ、写真などの資料については、巻末に掲載し大きく表示することとしたほか、各シートに登場する用語については、新たに用語集を設けております。また、その内容の客観性を確保するために、2人の学識経験者からご意見をいただき、巻末に掲載しております。

桶川市教育委員会では、「桶川市教育大綱」に掲げる「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」の実現のため、Plan（桶川市教育振興計画）・Do（実行）・Check（点検・評価）・Action（見直し）の事業サイクルにより、着実に事業を進めてまいります。

引き続きご理解とご協力をお願い申し上げます。

令和6年11月

桶川市教育委員会

教育長	岩	田	泉
教育長職務代理者	青	木	健志
委員	西	永	和子
委員	秋	山	節子
委員	吉	村	史朗
委員	井	田	佳代子

目次

I 点検評価の概要

1 趣旨	2
2 位置づけ	2
3 点検評価の実施	3

II 点検評価の方法

1 対象	6
2 実施方法	6
3 自己点検評価シートの構成	7

III 教育費歳出予算・決算（一般会計に占める割合）

1 予算	10
2 決算	11

IV 教育委員の主な活動記録

教育委員の主な活動記録	14
-------------	----

V 施策の体系

施策の体系	16
-------	----

VI 点検評価の結果

基本方針1「確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実」

施策1 教育環境の整備・充実	20
施策2 学校の組織運営の改善	23
施策3 一人一人の確かな学力を育む教育の推進	25
施策4 時代の変化に対応する教育の推進	27
施策5 主体的に進路を切り拓く力を育むキャリア教育の推進	30
施策6 インクルーシブ教育の推進	32
施策7 教職員の資質能力の向上	34

基本方針2「豊かな心の育成と人権意識の高揚」

施策1 豊かな心を育む教育の推進	36
施策2 いじめ・不登校の未然防止の推進	39
施策3 人権教育の推進	42

基本方針3「健やかな体の育成」

施策1 体力向上と学校体育の充実	44
施策2 学校給食における食育の推進	47

基本方針4「家庭・地域の教育力の向上」

施策1	家庭教育の支援	49
施策2	青少年の健全な育成	51
施策3	家庭・地域・学校の連携・協働の推進	53

基本方針5「生涯にわたる学びとスポーツの支援」

施策1	生涯学習の推進	56
施策2	多様な学習や活動の機会の充実	58
施策3	スポーツ・レクリエーション活動の普及	61

基本方針6「伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進」

施策1	文化財の保護及び保存・活用の推進	63
施策2	博学連携事業の推進	65

VII 自己評価一覧

自己評価一覧	68
--------	----

VIII 自己点検評価資料

資料No. 01	主な取組111	74
資料No. 02	主な取組152	75
資料No. 03	主な取組171	76
資料No. 04	主な取組172	76
資料No. 05	主な取組213	77
資料No. 06	主な取組221	79
資料No. 07	主な取組222	79
資料No. 08	主な取組223	79
資料No. 09	主な取組312	80
資料No. 10	主な取組313	81
資料No. 11	主な取組322	81
資料No. 12	主な取組433	82
資料No. 13	主な取組521	84
資料No. 14	主な取組523	86
資料No. 15	主な取組532	88
資料No. 16	主な取組611	89
資料No. 17	主な取組612	91

IX 外部評価

外部評価	96
------	----

X 用語集

用語集	100
-----	-----

I 点検評価の概要

I 点検評価の概要

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、教育委員会は、毎年、教育長に委任した事務を含め、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。この報告書は、同法に基づき、桶川市教育委員会が行った点検及び評価の結果をまとめたものです。

《法令抜粋》

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

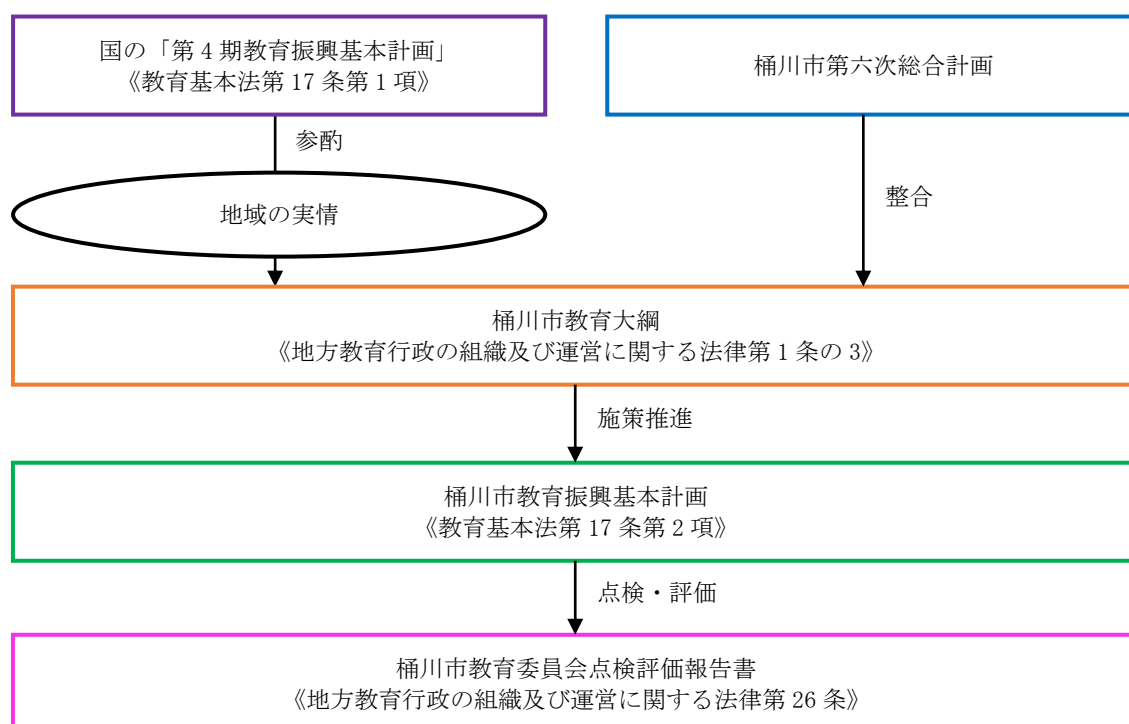
第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 位置づけ

この点検評価報告書は、国の「教育振興基本計画」を参酌し、本市の「総合計画」と整合性を図った「桶川市教育大綱」で掲げた基本理念や基本方針（目指す方向性）について、学校教育と社会教育が連携を深め、教育に関する施策を総合的・計画的に進めていくための「桶川市教育振興基本計画（以下、「基本計画」という。）」で示した施策の実現に向けた主な取組について、教育委員会が自ら点検し、評価を実施した報告書です。

《体系図》



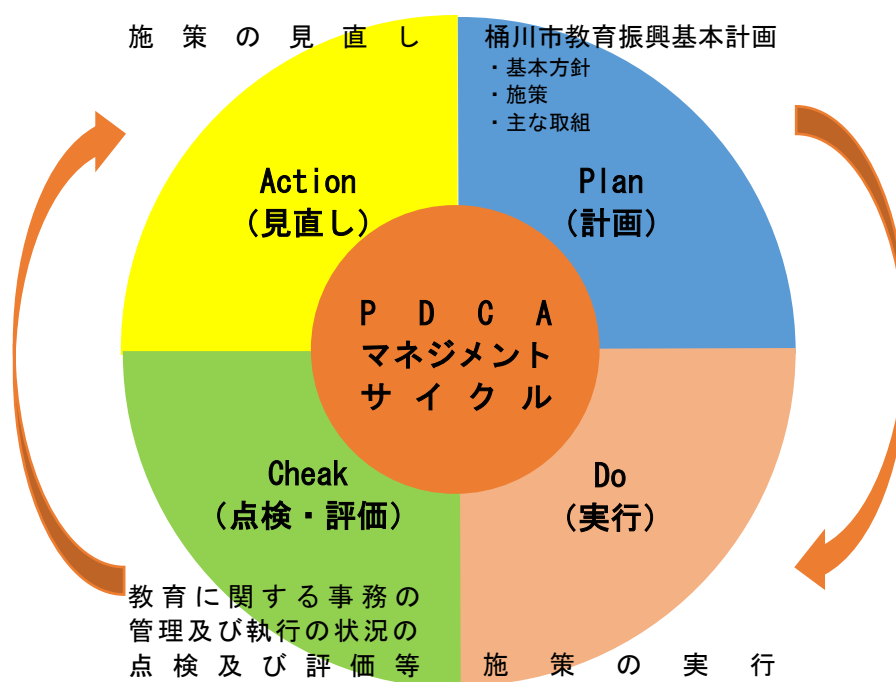
Ⅱ 点検評価の概要

3 点検評価の実施

日々変化する社会の中で、教育が対応すべき課題も日々刻々と変化しております。こうした中、基本計画で掲げた施策をはじめとする教育行政を推進していくためには、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→見直し（Action）というマネジメントサイクルを踏まえ、翌年度以降の具体的な取組を検討することが重要です。

基本計画の施策の実現に向け、すべての主な取組に指標を設け、取組状況及び成果を検証するとともに、進捗状況・達成度の点検評価を行います。

《PDCAマネジメントサイクル》



Ⅱ 点検評価の方法

Ⅱ 点検評価の方法

1 対象

点検評価の対象は、教育基本法第17条第2項に基づき、基本計画を策定し、教育行政施策を推進していることから、基本計画の6つ基本方針に掲げた20の施策に示した47の「主な取組」とし、その実施状況について点検評価を行うものとします。

2 実施方法

(1) 自己評価

47の「主な取組」ごとに自己点検評価シートを作成し、指標の実績値、取組状況、成果に基づき教育委員会の自己評価を次の記号を用いて4段階で表します。

《評価基準》

記号	判定区分
A	取組により十分な成果が得られ、実績も順調である
B	取組により一定の成果が得られ、実績も概ね順調である
C	取組により一定の成果は得られたが、実績は不調である
D	取組・成果ともに十分とはいえず、実績も不調である
/	やむを得ない事情により評価対象外

(2) 外部評価

点検評価を行うにあたり、評価の客観性を確保するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項の規定に基づき、学識経験者から基本方針ごとに評価を行っていただきます。

《外部評価者》

氏名	役職等
若原 幸範	聖学院大学政治経済学部政治経済学科准教授
小野田 正範	埼玉県公立小学校校長会事務局次長 学校法人 佐藤栄学園 さとえ学園小学校元校長

Ⅱ 点検評価の方法

3 自己点検評価シートの構成

		主な取組番号		
基本方針	基本計画より「基本方針」、「施策」、「主な取組」を記載			基本計画の()館)
施策				基本計画の「主な取組」の番号
主な取組				

1 主な取組の概要

基本計画より「主な取組」の概要を記述	
--------------------	--

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	千円	「主な取組」に関する予算額・決算額を記載 ※R10 年度まで累積記載			千円	千円
決 算 額	千円				千円	千円

3 自己点検評価

指 標	基本計画より「主な取組」に関する指標を記載				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
実 績	R5	R6	R7	R8	基本計画より 指標の基準値 を記載 基準値「-」 は、R5 年度以 降より新たに集 計する指標数値 のため、R4 年 度実績値なし	基本計画より 指標の目標を 記載
	指標の実績値を記載※R10 年度まで累積記載					
(1) R●年度取組状況			資料	☐ あり ☐ なし		
当該年度の取組状況を記述			参考となる資料の「あり・なし」を記載 「あり」の場合、右欄に資料掲載ページを 記載			
(2) 成果						
当該年度の取組による成果を記述						
(3) 課題						
上記「(1) 取組状況」及び「(2) 成果」より 抽出された課題を記述						
(4) 課題に対する次年度以降の方針						
上記「(3) 課題」と対になるように次年度以 降の方針を記述						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
実績値、取組状況、成果により自己評価を4段階で記載 ※R10 年度まで累積記載						

Ⅲ 教育費歳出予算・決算
(一般会計に占める割合)

Ⅲ 教育費歳出予算・決算

1 予算

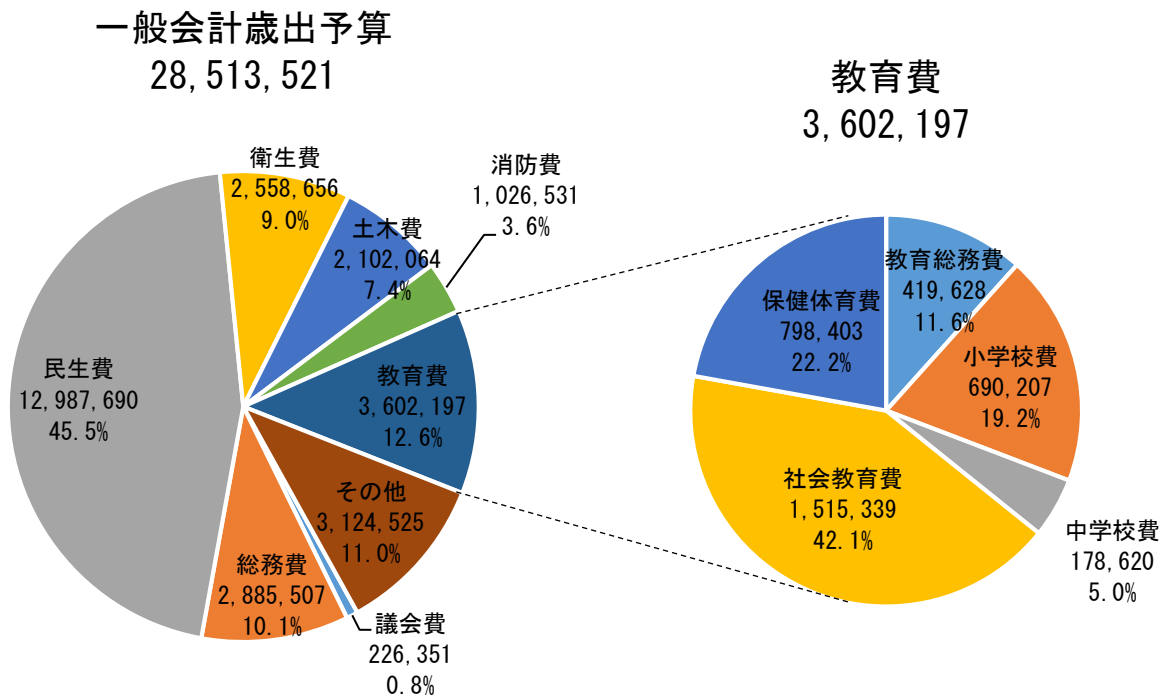
令和5年度の教育費の予算額は、一般会計歳出予算額285億1,352万1千円のうち、36億219万7千円となっており、一般会計に占める割合は、12.6%となっている。また、前年度と比較し、10億6,173万円の増で、41.8%の増となっている。

(単位：千円)

年度	一般会計予算	教育費	一般会計に占める割合
令和3年度	28,491,031	2,203,523	7.7%
令和4年度	27,730,650	2,540,467	9.2%
令和5年度	28,513,521	3,602,197	12.6%

《令和5年度予算 教育費の構成》

(単位：千円)



Ⅲ 教育費歳出予算・決算

2 決算

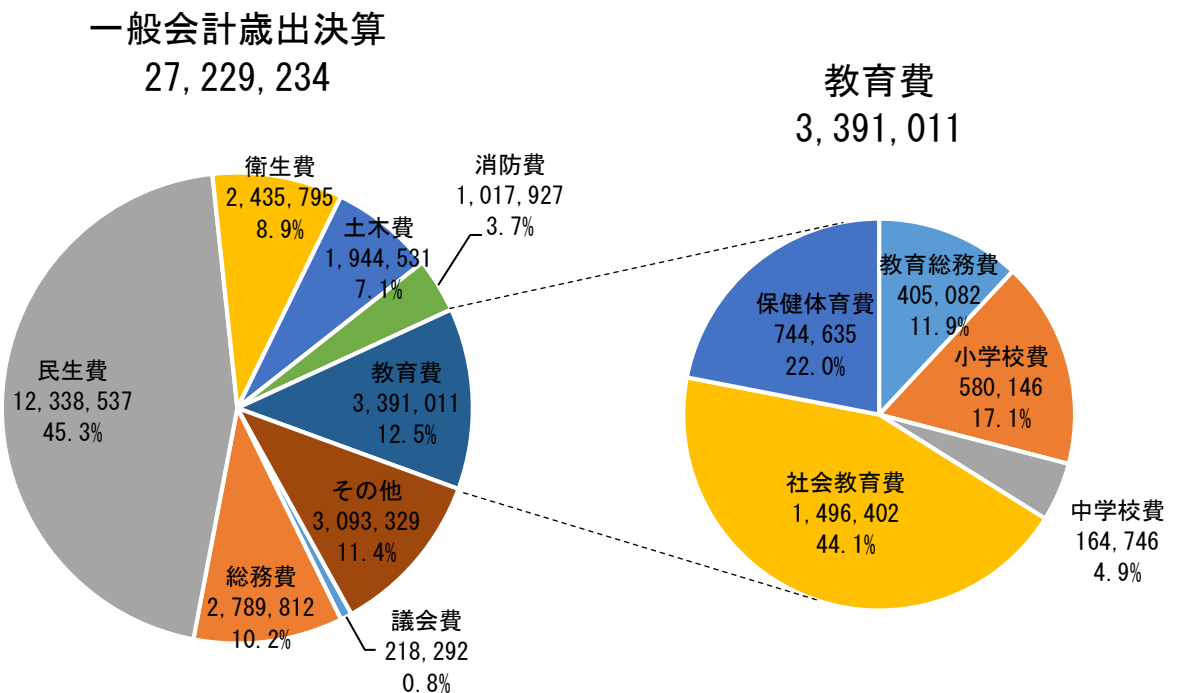
令和5年度の教育費の決算額は、一般会計歳出決算額272億2,923万4千円のうち、33億9,101万1千円となっており、一般会計に占める割合は、12.5%となっている。また、前年度と比較し、11億497万1千円の増で、48.3%の増となっている。

(単位：千円)

年度	一般会計決算	教育費	一般会計に占める割合
令和3年度	26,998,963	2,094,484	7.8%
令和4年度	26,308,847	2,286,040	8.7%
令和5年度	27,229,234	3,391,011	12.5%

《令和5年度決算 教育費の構成》

(単位：千円)



IV 教育委員の主な活動記録

Ⅳ 教育委員の主な活動記録

日付	内容	場所
令和 5. 4. 3	小・中学校教職員辞令交付式	桶川東公民館
. 4. 10	小・中学校入学式 教育委員会第4回定例会	市内小・中学校 桶川市役所
. 4. 27	上尾・桶川・伊奈教育委員会連絡協議会理事会・定期総会	桶川東公民館
. 5. 8	埼玉県南部地区教育委員会連合会理事会・定期総会	オンライン
. 5. 16	埼玉縣市町村教育委員会連合会総会	羽生市産業文化ホール
. 5. 20	小学校運動会	市内小学校
. 5. 23	教育委員会第5回定例会	桶川市役所
. 5. 26	関東甲信越静市町村教育委員会連合会定期総会	パストラルかぞ
. 5. 27	中学校体育祭	市内中学校
. 6. 23	教育委員会第6回定例会	桶川市役所
. 7. 12	教育委員会第1回臨時会	桶川市役所
. 7. 26	教育委員会第7回定例会	桶川市役所
. 7. 27	点検評価教育委員ヒアリング	桶川市役所
. 8. 1	子ども議会	桶川市役所
. 8. 25	教育委員会第8回定例会	桶川市役所
. 9. 29	教育委員会第9回定例会	桶川市役所
. 10. 24	教育委員会第10回定例会	桶川市役所
. 11. 6	総合教育会議	桶川市役所
. 11. 22	教育委員会第11回定例会	桶川市役所
. 12. 27	教育委員会第12回定例会	桶川市役所
令和 6. 1. 7	20歳を祝う会	桶川市民ホール
. 1. 26	教育委員会第1回定例会	桶川市役所
. 2. 13	教育懇談会	桶川市役所
. 2. 14	総合教育会議	桶川市役所
. 2. 19	教育委員会第2回定例会	桶川市役所
. 3. 15	中学校卒業式 教育委員会第1回臨時会	市内中学校 桶川市役所
. 3. 22	小学校卒業式 教育委員会第3回定例会	市内小学校 桶川市役所

※上記活動のほか、小・中学校の行事への出席、各種委員会への出席あり

V 施策の体系

Ⅴ 施策の体系

基本方針		施策	主な取組		ページ
1	確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	1 教育環境の整備・充実	111	学校施設の環境整備	20
			112	学校 I C T 環境の整備	21
			113	きめ細やかな指導・支援の充実	22
		2 学校の組織運営の改善	121	地域とともにある学校づくりの推進	23
			122	学校における働き方改革の推進	24
		3 一人一人の確かな学力を育む教育の推進	131	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の改善	25
			132	I C T を効果的に活用した授業の充実	26
		4 時代の変化に対応する教育の推進	141	超スマート社会に対応できる児童生徒の育成	27
			142	主体的に行動できる能力を育てる環境教育の推進	28
			143	グローバル化に対応する国際理解教育の推進	29
		5 主体的に進路を切り拓く力を育むキャリア教育の推進	151	キャリア教育の推進	30
			152	進路意識の啓発・高揚	31
		6 インクルーシブ教育の推進	161	特別支援教育の推進	32
			162	児童生徒への言語指導の充実	33
		7 教職員の資質能力の向上	171	教職員研修の充実	34
			172	教職員による不祥事の根絶に向けた取組の推進	35

Ⅴ 施策の体系

基本方針		施策		主な取組		ページ
2	豊かな心の育成と人権意識の高揚	1	豊かな心を育む教育の推進	211	道徳教育の推進	36
				212	生徒指導体制の充実	37
				213	読書活動を通じた学習の支援	38
		2	いじめ・不登校の未然防止の推進	221	いじめ防止対策の推進	39
				222	不登校対策の推進	40
				223	教育相談の推進	41
		3	人権教育の推進	231	学校教育における人権教育の推進	42
				232	社会教育における人権教育の推進	43
3	健やかな体の育成	1	体力向上と学校体育の充実	311	児童生徒の体力向上	44
				312	スポーツに関する連携協定事業の充実	45
				313	スポーツ・レクリエーション団体等との連携	46
		2	学校給食における食育の推進	321	食に関する指導の充実	47
				322	学校給食の充実	48
4	家庭・地域の教育力の向上	1	家庭教育の支援	411	未就学児の保護者への子育てに関する学習機会の提供	49
				412	児童生徒の保護者への子育てに関する学習機会の提供	50
		2	青少年の健全な育成	421	生きる力を育む教育の実施	51
				422	青少年健全育成のための啓発活動	52

Ⅴ 施策の体系

基本方針		施策		主な取組		ページ
4	家庭・地域の教育力の向上	3	家庭・地域・学校の連携・協働の推進	431	学校応援団の活動の充実	53
				432	放課後における地域交流の場の充実	54
				433	地域コミュニティ・社会教育団体への支援	55
5	生涯にわたる学びとスポーツの支援	1	生涯学習の推進	511	生涯学習の場の提供と人材発掘	56
				512	芸術文化活動への支援	57
		2	多様な学習や活動の機会の充実	521	学習機会の創出	58
				522	歴史民俗資料館展示・講座の充実	59
				523	ライフステージに応じた講座の開催	60
		3	スポーツ・レクリエーション活動の普及	531	スポーツ指導者の育成	61
				532	スポーツ施設の充実	62
6	伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進	1	文化財の保護及び保存・活用の推進	611	民俗芸能伝承状況調査の実施	63
				612	文化財の調査と指定	64
		2	博学連携事業の推進	621	教職員向けの講座の実施	65
				622	年間指導計画に基づく調べ学習の推進	66

VI 点検評価の結果

右上に「*」が付されている文字は、用語集（P94）にて用語の解説をしています。

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	1 1 1
基本方針	1	確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）
施策	1	教育環境の整備・充実	教育総務課
主な取組	1 1 1	学校施設の環境整備	

1 主な取組の概要

安心・安全・快適に学習できる教育環境を確保しつつ、新しい時代の学びを実現するため、大規模改修等を通じて、校舎、給食室等の老朽化対策や教育環境の整備を推進します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	318,440 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	313,438 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標		小・中学校の施設の満足度 ※R6 年度より実施する児童生徒のアンケート調査の結果				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
						—	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10	
	—						
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P74 No. 01		
① 安心・安全・快適に学習できる教育環境を確保していくため、体育館空調設備設置工事を小学校 4 校（桶川小、加納小、川田谷小、桶川西小）、設計委託を小学校 3 校（桶川東小、日出谷小、朝日小）で実施した。 ② 小学校 5 校（加納小、桶川西小、桶川東小、日出谷小、朝日小）及び中学校 3 校（桶川中、桶川東中、桶川西中）の給食室換気設備や体育館舞台設備、校舎放送設備等、施設維持に係る工事を 11 件実施した。							
(2) 成果 小学校 4 校において体育館空調設備設置等工事を実施し、熱中症対策や学校施設の防災機能強化等、体育館の施設機能が向上した。また、市内小・中学校の学習環境に支障が生じないように、緊急性や学校の要望等を踏まえ、適切に施設維持工事及び修繕を実施し、校舎等の施設設備の維持管理を図ることができた。							
(3) 課題 ① 体育館及び特別教室の空調設備整備や平成 26 年度に設置した普通教室等における既設空調設備の更新、照明設備のLED*化等について、計画的に実施していく必要がある。 ② 安心・安全・快適に学習できる教育環境を確保しつつ、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を実現するため、校舎や給食室、プール、校庭・外構（門・フェンス、固定施設（遊具）、樹木）等の老朽化対策や教育環境の整備（民間委託を含む）を推進するために、「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」の見直しが必要である。							
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 令和 7 年度までに市内全ての小・中学校の体育館に空調設備等の整備を行う。 令和 6 年度：小学校 3 校の工事等（桶川東小、日出谷小、朝日小） 令和 7 年度：中学校 4 校の工事等（桶川中、桶川東中、桶川西中、加納中） また、特別教室の空調設備整備や普通教室等における既設空調設備の更新に係る検討を行う。 ② 大規模改修等を実施するため、「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」の見直しを行う。							
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10	
	B						

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	1 1 2
基本方針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）	
施策	1 教育環境の整備・充実	教育総務課	
主な取組	1 1 2 学校 I C T 環境の整備		

1 主な取組の概要

児童生徒の 1 人 1 台端末や大型提示装置等の I C T *機器や高速大容量の情報通信ネットワーク等の整備について、適正な維持管理及び計画的な更新を行い、I C T 環境の整備を推進します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	82,944 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	82,930 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	児童生徒 1 人当たりの教育用コンピューターの台数				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					1.2 台	維持 →
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	1.1 台					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 児童生徒が使用する教育用コンピューターの修理を 345 台（うち、有償修理 211 台）実施するとともに、修理台数の増加に伴い、補正予算により修繕料の増額を行った。また、教職員が使用する校務用パソコン及び校務システム等の借上げ、情報通信ネットワーク環境の保守等を実施した。 ② 1 人 1 台端末の次期更新に向けて発足された埼玉県共同調達会議に参加した。						
(2) 成果 1 人 1 台端末の修理や校務用パソコン及び校務システム等の借上げ、情報通信ネットワーク環境の保守等を実施し、大型提示装置などの I C T*を活用した学習活動に必要な環境の確保及び維持管理を行うことができた。また、埼玉県共同調達会議に参加し、今後の 1 人 1 台端末の更新スケジュールや県内の先進事例等について情報共有を行うことができた。						
(3) 課題 ① 1 人 1 台端末の活用機会の増加による破損や、経年による故障及びバッテリーの劣化等が増加しつつあり、今後も修繕料の増加や、職員が修理を行う際の業務量の増大が見込まれる。 ② 令和 7 年度末で導入から 5 年が経過することから、1 人 1 台端末や情報通信ネットワーク機器等の更新についても検討が必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 現行の 1 人 1 台端末や情報通信ネットワーク機器等の更新及び維持管理並びに通信環境等の向上について検討を行う。 ② 埼玉県共同調達会議に参加し、国や県の動向に注視するとともに、次期 1 人 1 台端末への更新に向けて具体的な準備を進める。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	1 1 3
基本方針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）	
施策	1 教育環境の整備・充実	学校支援課	
主な取組	1 1 3 きめ細やかな指導・支援の充実		

1 主な取組の概要

各種補助員*を市内小・中学校に配置することにより、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな指導・支援の充実を図ります。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	71,663 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	68,648 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	全国学力・学習状況調査*結果で、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童生徒の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)												
					小 63.5% 中 58.6%	上昇 ↑												
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10												
	小 65.1% 中 60.3%																	
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—													
① 市内小・中学校に各種補助員*を配置し、教職員のサポートや授業準備の補助を行うことで、児童生徒に対してきめ細やかな指導と見届けを行った。 【配置数 ※ () 内は令和 4 年度】 <table><tr><td>教育指導補助員</td><td>51 人 (52 人)</td><td>学校図書館教育補助員</td><td>11 人 (11 人)</td></tr><tr><td>日本語指導員</td><td>3 人 (3 人)</td><td>理科支援員</td><td>5 人 (2 人)</td></tr><tr><td>I C T*支援員</td><td>6 人 (5 人)</td><td></td><td></td></tr></table>							教育指導補助員	51 人 (52 人)	学校図書館教育補助員	11 人 (11 人)	日本語指導員	3 人 (3 人)	理科支援員	5 人 (2 人)	I C T*支援員	6 人 (5 人)		
教育指導補助員	51 人 (52 人)	学校図書館教育補助員	11 人 (11 人)															
日本語指導員	3 人 (3 人)	理科支援員	5 人 (2 人)															
I C T*支援員	6 人 (5 人)																	
(2) 成果 個別に対応することで、きめ細かな指導、わかる授業を展開することができた。諸活動においても複数の目による見守りができた。蔵書の整理や貸し出し業務、図書室の利用指導等を行い、児童生徒の読書に対する関心を向上させることができた。個別に日本語指導を行うことで、対象児童生徒の日本語能力が少しずつ向上し、安心して学校生活を送ることができた。また理科支援によって理科担当教職員が実験や作業を効率よく行うことができた。児童生徒が授業で I C T*端末を使用する際、支援員のサポートによりスムーズに授業を受けることができた。																		
(3) 課題 ① 日本語指導が必要な児童生徒が増加傾向にあり、本人の日本語能力も様々であるため、授業を受ける際の補助から日常会話のサポートまで、ニーズも多様化している。 ② 1つの学校に長く所属している補助員がおり、役割が固定化されている部分がある。																		
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 学校と教育委員会との連携を密にし、日本語指導が必要な児童生徒の把握を努める。一人一人にきめ細やかな指導を行いつつ、配置について検討、改善していく。 ② 継続年数の長い職員を中心に、配置について適切に計画することで、ベテラン職員が特定の学校に偏ることを防ぎ、教育水準を均一に保つようにする。																		
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10												
	B																	

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	1 2 1
基本方針	1	確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）
施策	2	学校の組織運営の改善	学務課
主な取組	1 2 1	地域とともにある学校づくりの推進	

1 主な取組の概要

教育委員会が学校運営協議会*委員を任命し、各学校に設置した学校運営協議会の運営状況を把握するとともにコミュニティ・スクール*連絡協議会を開催して、各学校の委員同士の交流や情報交換を行うことで、各学校の学校運営協議会の質の向上、組織力の向上を図ります。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	898 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	759 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	各学校における学校運営協議会*の充実度 ※コミュニティ・スクール連絡協議会における4段階評価アンケートの平均				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					—	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	3.2					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 令和5年度の学校運営協議会*開催数は、3校が4回、8校が5回であった。主に児童生徒の登下校の安全、学力向上、いじめ対策、校則の見直し、学校と地域の連携などについて協議した。 ② コミュニティ・スクール*連絡協議会を開催し45人（第1回23人、第2回22人）が参加した。1回目は各学校の取組について情報共有及び協議、教育委員会からの情報提供を行った。2回目は南部教育事務所の社会教育主事を講師に招いて「実効性のあるコミュニティ・スクールの実現を目指して」をテーマに研修会を行うとともに、2校の実践発表に対し指導・助言をいただいた。						
(2) 成果 学校の教育活動に対し、様々な角度や多様な見方からの意見により議論を深めることができ、教育活動や地域連携に関する点検や見直しを図るとともに協働*へとつながった。例えば、児童生徒の安全確保のために地域と連携した登下校の見守りや学校施設の安全点検を共に実施するなど、学校安全の活動を円滑に進めることにつながった。また、コミュニティ・スクール*連絡協議会では、各学校の取組を共有・情報交換を行うことで、次年度の計画作成に生かし、講師からの指導・助言により学校運営協議会*を活性化することができた。						
(3) 課題 ① 児童生徒と地域が連携して行う活動については、児童生徒の発達段階や学校の実態によるところが大きい。そのため、各学校の状況に合わせた取組とすることが重要である。 ② 学力向上や安全など多くの課題が挙げられたことで議論がまとまらず、課題解決に至らない学校もあるため、学校運営協議会*は計画的に進める必要がある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 各学校の取組について情報交換する機会を設け、協議を通して各学校における学校運営協議会*の充実を図る。 ② 各学校の学校運営協議会を円滑に運営するため、コミュニティ・スクール*連絡協議会を活用し、文部科学省で作成する資料等の提供、先進事例の紹介、及び講師による講演などを実施する。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	1 2 2
基本方針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）	
施策	2 学校の組織運営の改善	学務課	
主な取組	1 2 2 学校における働き方改革の推進		

1 主な取組の概要

「桶川市立小・中学校における働き方改革*基本方針」のもと、教職員の長時間勤務の縮減を図り、子どもと向き合う時間を確保し、教育の質を向上させるため、学校における働き方改革を推進します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	時間外在校等時間が 45 時間以内の教職員の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					小 83.6% 中 40.9%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	小 79.2% 中 43.4%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 働き方改革*基本方針の改定を行い、成績処理、出欠席管理、健康診断票等を統合した機能を有しているシステム（以下、校務支援システム）の活用や、書類への押印廃止等について示した。 ② 指導要録（指導・学籍）の電子化、教職員の人事異動に伴う書類等の原本証明の簡略化を推進した。 ③ 県が示す業務改善スタンダードや先進事例等の取組を教育委員会と学校で情報共有をした。また、校務支援システムを活用して、教職員の時間外在校等時間を客観的に把握し、時間外在校等時間の長い教職員への対応、業務内容の見直し等について管理職への指導助言を行った。						
(2) 成果 教職員の時間外在校等時間の現状と目標、具体的な方針を示すことで、学校が見通しをもって、働き方改革*に取り組めるようになった。また、指導要録等の事務処理の簡略化により、年度初め及び年度末の教職員の負担が軽減された。さらに、教育委員会が「事務の共同実施」に直接関わることで、事務職員の意見を踏まえた事務処理の改善を図ったことにより、業務負担を軽減することができた。それにより、事務職員が学校の働き方改革に、一層関わるできるようになった。						
(3) 課題 ① 小学校においては、時間外在校等時間 80 時間超えの教職員はほぼゼロに近づいているが、45 時間超えの教職員をゼロにするまでには至っていないため、より一層、取組の推進が必要である。 ② 中学校においては、部活動を終えた後で通常の業務を行うことが多いため、時間外在校等時間 80 時間超えの教職員の割合が高く、より一層、取組の推進が必要である。 ③ 産休代員、育休代員が不足していることから、業務が他の教職員の負担になっているため、安定した代員の確保及び配置が必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 教職員の時間外在校等時間の縮減を図るため、教育委員会から学校に対し、日課表やカリキュラムの見直し等の先進事例の提案や、実践するまでの手順について情報提供を行う。 ② 部活動の在り方や活動内容についての見直しを学校が行っていけるように、教育委員会から指導・助言を行う。 ③ 児童生徒が質の高い教育を安定して受けられるよう、教職員定数の改善を国や県に要望する。また、市ホームページを活用して、魅力ある桶川市の教育を P R することで人材確保につなげる。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	C					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	1 3 1
基 本 方 針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実		担当課（館）
施 策	3 一人一人の確かな学力を育む教育の推進		学校支援課
主 な 取 組	1 3 1 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の改善		

1 主な取組の概要

各種調査（学力・学習状況調査*等）の結果を分析し、成果と課題を検証することによって、課題となる部分に対して効果を発揮できるよう、授業の改善を図ります。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

自己点検評価

指 標	全国学力・学習状況調査*結果の正答率で、全国平均を上回る学習指導要領の領域等の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					91.7%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	90.9%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 全国学力・学習状況調査*の結果の分析を行った。 ② 分析、検証を行った内容をホームページに公開した。 https://www.city.okegawa.lg.jp/soshiki/kyoiku/gakkoushien/oshirase/about/1446.html 						
(2) 成果						
教育委員会と学校が全国学力・学習状況調査*の結果について分析を行った。各学校において成果と課題を検証したことにより、学力向上プランの見直しや授業の改善が図られた。						
(3) 課題						
① 学校運営研究委員会（主幹教諭、教務主任）において、学力向上に向けた取組についての協議や共有が必要である。 ② 学校訪問において、学力に関する課題を解決するための研究協議を充実させ、成果が高まるよう指導助言することが必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針						
① 学校運営研究委員会において、学力・学習状況調査*の結果の活用について研修を行い、結果を活用した、授業の工夫改善を協議する。 ② 学校訪問を通して「主体的・対話的で深い学び*」、「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」の実現に向けた授業改善について、指導助言をする。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	1 3 2
基本方針	1	確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）
施策	3	一人一人の確かな学力を育む教育の推進	学校支援課
主な取組	1 3 2	I C T を効果的に活用した授業の充実	

1 主な取組の概要

誰一人取り残すことのない、個別最適化された学びを実施していくために、各教科等の特質に応じた適切な学習場面での I C T*活用について、各学校で研究を深めるとともに、研修会等において方策を発表し、市全体で情報を共有します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	I C T*を授業で活用している教職員の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					81.3%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	95.4%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 教職員を対象にした情報研修会を年3回実施した。 ② 市内小・中学校における学校教育の情報化について、計画的かつ組織的に推進するため、桶川市学校教育情報化推進委員会（委員長（校長）1人、副委員長（教頭）1人、委員（各学校1人）11人、事務局（学校支援課1人）、計14人）を設置している。年3回の委員会を開催した。						
(2) 成果 令和5年度は、学校教育情報化推進委員会で、1人1台端末の効果的な活用やI C T*活用に関する課題の共有および解決に向けた協議を行い、共通理解を図った。また、1人1台端末のさらなる活用促進に向け、埼玉県教育局I C T推進課長や文部科学省I C T活用教育アドバイザーを招いてI C T機器活用研修を行った。結果、I C Tを授業で活用している教職員の割合が10ポイント以上上昇した。						
(3) 課題 ① I C T*を使いこなすことが苦手な教職員が参加し、活用力を向上させる必要がある。 ② I C T機器を活用した授業を、より充実させる必要がある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 計画的に推進していくために各学校の活用状況や、より活用を深められるよう課題に応じた研修会を設定する。 ② I C T*機器を活用した「主体的・対話的で深い学び*」の授業・教材の共有のため、活用事例について、クラウド*を通し、随時情報を発信する。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	A					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	1 4 1
基本方針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）	
施策	4 時代の変化に対応する教育の推進	学校支援課	
主な取組	1 4 1 超スマート社会に対応できる児童生徒の育成		

1 主な取組の概要

1人1台端末の効果的な活用により、児童生徒のデジタルリテラシー*等の向上を図るとともに、情報を正しく安全に利用するための情報モラル*教育を推進し、超スマート社会*(Society 5.0)に対応できる人材を育成します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	4,119 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	4,119 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	市主催の I C T*機器活用研修会における参加者の理解の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					—	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	84.0%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 各学校の I C T*支援員 6 人に研修会を年 5 回実施した。校内での支援員が行っている支援の内容を情報交換することやソフトの活用例の研修を行った。						
(2) 成果 児童生徒が I C T*機器の活用をスムーズに行えるよう、学校での学習支援体制について協議し、学習支援ソフト（フィグジャム）や機器の活用について研修を行った。						
(3) 課題 ① 児童生徒の I C T*活用を推進するために、教職員や I C T支援員の I C Tスキルの向上が必要である。 ② 児童生徒の情報モラル*教育の推進が必要である。 ③ I C T支援員の活用推進が必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 学校訪問において、児童生徒の I C T*活用状況を確認し、教職員と I C T支援員に指導を行う。 ② 児童生徒の情報モラル*教育の充実を目指し、指導に生かせる情報を提供する。 ③ I C T支援員が何を支援するか、学校は何の支援を受けられるかを明確にし、相互の共通理解を図る。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	142
基本方針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）	
施策	4 時代の変化に対応する教育の推進	学校支援課	
主な取組	142 主体的に行動できる能力を育てる環境教育の推進		

1 主な取組の概要

教育委員会と学校が連携を図り、持続可能な社会*の担い手を育成するため、学習指導要領*に基づきSDGs*の視点を含めた教科等横断的な環境教育を推進するとともに、市内小・中学校で実施しているグリーンカーテン事業を継続します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	10 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	9 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	全国学力・学習状況調査結果*で、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					小 75.1% 中 61.3%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	小 75.1% 中 61.6%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 環境教育として、桶川市の理科・環境教育研究会の研修会において、各学校の教育課程でカーボンニュートラル*を含むSDGs*の取組を位置づけていくことを指導した。 ② 市内小・中学校における環境教育の実践のため、グリーンカーテン事業を行った。						
(2) 成果						
市内小・中学校で各教科におけるSDGs*の取組を年間計画にどのように位置づけているかを情報共有できた。また、市内小・中学校における環境教育の実践のため、各学校にゴーヤの苗を配付し、グリーンカーテンの育成に取り組み、暑さ対策をすることができた。						
(3) 課題						
① 市内小・中学校で環境教育の実践例を共有し、取組に生かすことができるようにすること。 ② グリーンカーテンを生かした体験学習に結びつけることができるようにすること。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針						
① 各学校でのSDGs*を含めた環境教育の年間指導計画を作成し、実践について情報交換する。 ② グリーンカーテンを生かした体験学習の例を各学校に示す。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	1 4 3
基本方針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実		担当課（館）
施策	4 時代の変化に対応する教育の推進		学校支援課
主な取組	1 4 3 グローバル化に対応する国際理解教育の推進		

1 主な取組の概要

学校の教育活動を通じて、児童生徒が視野を広げ、国際社会の平和と発展に寄与する態度、チャレンジ精神などを育む教育を進めるとともに、各学校に英語指導助手*を配置することで、英語教育を推進します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	20,960 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	20,613 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	埼玉県学力・学習状況調査*結果の中学生英語正答率で埼玉県平均を上回る生徒の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					50.9%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	52.0%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 各学校において、国際理解教育の年間計画に基づき、自国だけでなく諸外国に目を向け、視野を広げるための教育活動（A L T*による自国の行事紹介、修学旅行で外国人へのインタビューなど）を実施した。 ② A L Tを小学校に5人、中学校に2人配置し、外国語活動、外国語、英語の授業において、担当教職員とのT T授業*を実施した。						
(2) 成果						
各教科において、自国だけでなく諸外国の文化や生活についての興味・関心を高める教材を活用することで、国際社会を生きるグローバル*な人材育成を推進することができた。児童生徒が英語を使ってA L T*と直接会話をすることで、外国語・英語に関する興味・関心を高め、コミュニケーションの意欲を向上させることができた。						
(3) 課題						
① 国際社会を生きるグローバル*な人材育成を目指す国際教育のより一層の推進が必要である。 ② 令和5年度埼玉県学力・学習状況調査*の「話すこと」の中学校3年生の平均正答率が29.7%（県26.5%）であり、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」より「話すこと」に課題がある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針						
① 自国の文化を理解するとともに、諸外国の文化を知るという理解にとどまらず、国際社会の視点に立ち、主体的に自ら発信する力や平和と発展に寄与する態度、チャレンジ精神等を身に付けたグローバル*な人材の育成を行う。 ② A L T*や教職員に対し、研修や指導を通して、授業内で話すことを中心としたコミュニケーション活動等を充実させる。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	151
基本方針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）	
施策	5 主体的に進路を切り拓く力を育むキャリア教育の推進	学校支援課	
主な取組	151 キャリア教育の推進		

1 主な取組の概要

学びのプロセスを記述し振り返ることのできるポートフォリオ*としてキャリアパスポート*を作成し、活用することで、自己実現や自己のキャリア形成に生かし、特別活動をはじめとしたキャリア教育*を推進します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	40 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	40 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	全国学力・学習状況調査*結果で、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					小 83.7% 中 63.7%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	小 83.6% 中 66.0%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 市内小・中学校でキャリアパスポート*を作成し、引継ぎを行うことで、小学校・中学校・高等学校を通じて、一人一人の児童生徒が学びの足跡を可視化できるようにした。「将来の夢」と「いま学校で学んでいること」のつながりを意識することで、児童生徒の主体的に学ぶ意欲を促進させた。						
(2) 成果 遠足や修学旅行、体育祭、文化祭、入学式や卒業式のほか、地域でのボランティア活動や職業体験といった特別活動を通じてキャリアパスポート*を作成することができた。学校行事や体験活動を通じて、児童生徒に自己の成長や変化を感じさせることができた。教職員は、児童生徒が記録した内容を確認することで、児童生徒に対する理解が深まり、日頃の学校生活の様子からは分からない内面を観察することができた。進級や転校などで担任が変わる際にキャリアパスポートを確認することで、児童生徒を理解する一助となった。						
(3) 課題 ① キャリアパスポート*は、埼玉県で令和 2 年度から導入を開始し 3 年目を迎えたが、学校や教職員が作成内容について一定の裁量が認められているため、シートの内容や活用方法を充実させる必要がある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 国や県から出された情報を学校へと周知し、活用方法について具体的な書式や事例を提示していく。また学校と連携し、キャリアパスポート*を活用した効果的な取組を確実に実施していく。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	1 5 2
基本方針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）	
施策	5 主体的に進路を切り拓く力を育むキャリア教育の推進	学校支援課	
主な取組	1 5 2 進路意識の啓発・高揚		

1 主な取組の概要

中学校における進路指導の一環として、勤労観や職業観を育成するために「社会体験チャレンジ」を実施したり、生徒や保護者の進路意識を啓発するために「ふれあい講演会」を実施し、地域で活躍する職業人の講演を開く機会を提供したりすることで、進路意識の啓発・高揚を図ります。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	221 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	221 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	社会体験チャレンジ実施後調査における、生徒の進路に対する意識高揚の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					—	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	84.7%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P75 No. 02	
① 職業観や公平な社会性への理解を深め、進路意識の啓発・高揚を図るため、全中学校の2 学年生徒の職場体験を行った。(インフルエンザ流行に伴う学級閉鎖のため、1 校の実施を中止。) ② 生徒や保護者の進路意識を啓発するために講演会を実施し、多様な地域や職種で活躍する職業人の講演を聴く機会を提供した。						
(2) 成果						
社会体験を通じて、生徒の職業観や働くことについての意識を高めることができた。挨拶や言葉遣いの練習、3 日間の体験、終了後のお礼の手紙を書くことなどを通して、礼節やマナー等の重要性を学ぶことができた。また、多様な経験をもつ人物の講演を通じて、生徒たちに自分自身の将来について考える契機を与えることができた。夢を実現するために努力することの大切さ、困難に対し前向きに取り組む姿を伝えることで、生徒たちの進路意識の啓発・高揚を図ることができた。						
(3) 課題						
① 全 77 の受け入れ事業所のうち、最も数の多い小売店・販売店が 24 か所なのに対し、医療関係が 2 か所、工業関係が 1 か所と少なく、業種に偏りがあった。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針						
① 年 2 回の事業推進委員会において、桶川市 P T A*連合会、桶川市商工会、桶川ロータリークラブ、桶川市青年会議所等と情報を共有する。市内及び近隣市の事業所に対して本事業への理解・協力を依頼し、積極的に新規受入れ事業所を開拓していく。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	1 6 1
基本方針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）	
施策	6 インクルーシブ教育の推進	学校支援課	
主な取組	1 6 1 特別支援教育の推進		

1 主な取組の概要

各学校において、特別な教育的支援を必要とする児童生徒への指導や支援を切れ目なく提供する体制を整えます。また、通常の学級、通級による指導、特別支援学級*での連続性のある「多様な学びの場」を充実させるとともに、教員の専門性の向上を図ります。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	225 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	200 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	通常学級に在籍する特別の教育的支援が必要な児童生徒の個別指導計画作成率				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					87.8%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	100%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 通常学級に在籍する発達障害や情緒障害がある児童生徒に対し、障害の改善または克服に向けた特別な指導及び必要な教育支援を行った。 ② 学期に 1 回通級指導教室*担当教職員が通級利用児童生徒の在籍校を訪問し、児童生徒の行動観察及び在籍校担任との情報交換を行った。 ③ 通常学級に在籍する特別の教育的支援が必要な児童生徒に対して、全員分の個別指導計画を作成した。						
(2) 成果 個別指導において学級担任と通級指導担当が連携し、学習上または生活上の困難さを克服するための学習により、通常学級の授業に参加する力や通常学級に適応する力を向上させることができた。また、一人一人の状況に応じてグループ学習に取り組み、他者との関わり合いの中で学習することでコミュニケーション能力の向上へつながった。各学期に 1 回保護者・在籍校教職員・通級教室担当教職員・教育委員会による連絡会を実施することで、指導・支援の方向性について共通理解が図られ、全ての児童生徒が共に学ぶ「共生社会*」に向けてインクルーシブ*教育を推進することができた。						
(3) 課題 ① 特別な配慮を必要とする児童生徒の数が増加しており、必要となる支援の形が多様化している。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 教育委員会及び各通級指導教室*間で連携を図る機会を増やし、効果的な体制の構築や環境整備、児童生徒の特性に応じた支援の方法について検討・協議を行い、市内全体の通級指導教室における支援体制の充実を目指す。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	A					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	1 6 2
基本方針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）	
施策	6 インクルーシブ教育の推進	学校支援課	
主な取組	1 6 2 児童生徒への言語指導の充実		

1 主な取組の概要

ことばの発達に課題のある児童生徒への言語指導や保護者等からの相談対応及び教職員への研修を行い、対象となる児童生徒への理解を深めるとともに、連絡会を構成し学校との連携を図ります。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	1,580 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	1,551 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	ことばの教室連絡協議会に参加したことにより「言語指導への知識理解が深まった」と回答した教職員の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					—	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	85.7%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 「ことばやきこえ」の発達を支援するため、桶川西小学校内に設置している桶川市ことばの教室において、ことばを増やすための指導や正しい発音へと導く指導等、言語聴覚士*による児童生徒一人一人の状態に応じた専門的な個別指導を行った。 ② 対象となる児童生徒の在籍校に所属する特別支援教育コーディネーター及び学級担任に対して、指導の充実が図られるよう、ことばの教室連絡協議会を実施した。また、市内の初任者教職員に対してことばの教室に関する研修を行った。						
(2) 成果						
言語聴覚士*による専門的な指導により、言葉の発音(構音、吃音、発達遅滞)等において困難さを抱えている児童生徒に適切な指導や支援を行うことができた。また、随時入級や相談が出来、指導をすぐに開始できる体制を作ること、指導の効果をより高めることができ、保護者の不安や児童生徒の現状について相談を受けた際に、専門的な立場から助言をすることができた。さらに、学校や担任から伝えることが難しいケースも専門家として、教育センターや医療機関等へとコーディネートすることができた。						
(3) 課題						
① 言語聴覚士*の配置が市内に1人であるため、担当変更の際には情報を適切に引き継ぐ必要がある。 ② 悩みや不安を持つ保護者に、できるだけ早くことばの教室の存在を知ってもらう必要がある。 ③ 「ことばやきこえ」の発達という専門性の高い貴重な支援方法等について、現在初任者教職員のみが研修を受けている。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針						
① 簡易的な引継ぎだけでなく、しっかりとした伝達の機会を確保し、教育委員会が仲介する等、情報の抜けや漏洩が起らないよう手順をマニュアル化する。 ② 毎年小学校1年生の全家庭に対して配布していることばの教室に関する案内を、入学直後のより早いタイミングで周知していく。 ③ 初任者教職員以外にも研修の機会を設ける。また、研修内容についてオンデマンド*での配信を行っていく。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	171
基本方針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実		担当課（館）
施策	7 教職員の資質能力の向上		学校支援課
主な取組	171 教職員研修の充実		

1 主な取組の概要

初任者育成授業研修会や学校課題研修会を実施し、教職員が主体となって、本市の教育について研究や理解を深めるとともに、授業実践を通して、資質・指導力の向上を図ります。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	2,328 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	2,328 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標		初任者育成状況授業見学の 5 段階評価の平均点の 1 学期の数値と 3 学期の数値の差				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
						+0. 1	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10	
	+0. 2						
(1) R5 年度取組状況			資料	☑あり ☐なし	P76 No3		
① 教育講演会、初任者研修、道徳研修、人権研修等の教育委員会主催の研修会を実施した。 ② 南部教育事務所の協力を得て、学校訪問では、教育課程、学習指導、その他学校運営に係る専門的事項について指導・助言を行った。 ③ 市内小・中学校に交付金を交付し、研究を支援し、本発表校には、研究発表会の開催に至るまでの支援や全体会での指導講評を行った。また、外部から講師を招き研究に係る指導・助言を行った。 ④ 初任者育成については、1 学期と 3 学期に指導主事により資質・指導力の 5 段階評価を行った。							
(2) 成果 教育委員会主催研修会等については、開催方法を工夫し数多くの研修会等を実施することができた。学校訪問では、専門性の高い教科等指導員や外部指導者を招へいし、質の高い指導を行うことで教職員の資質・能力の向上につながった。学校課題研究では、各学校が工夫を凝らし、児童生徒の学力向上を目指した研究を行った。研究主題である「主体的・対話的で深い学び*」を教職員が自ら実践している学校が多くみられ、指導力向上に資することができた。初任者育成では、1 学期と 3 学期に指導主事が行った 5 段階評価で 0.2 ポイント上昇。初任者の成長により指導力の底上げにつながった。							
(3) 課題 ① 効果的な研修会の開催方法（集合型とオンライン型）についての検討が必要である。 ② 学校訪問に関しては、教職員の資質・能力の向上をめざして、内容の工夫・改善が必要である。 ③ 研究発表に関しては、研究の成果が高まるよう研究課題についての具体的な指導・助言が必要である。							
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 研修内容・実施方法を精査し、効果的な研修を計画・実施する。 ② 指導主事等による指導・助言を行うことで、教職員の資質・能力の向上を図る。 ③ 学校の教職員が組織的に研究に取り組むことができるよう、3 年間を見据えた支援を行う。							
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10	
	B						

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	172
基本方針	1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実	担当課（館）	
施策	7 教職員の資質能力の向上	学務課	
主な取組	172 教職員による不祥事の根絶に向けた取組の推進		

1 主な取組の概要

各学校における倫理確立委員会の取り組みや、様々な研修の実施などにより、教職員による不祥事の根絶を図るとともに、教職員の心身の健康の保持増進を図るなど、支援するための取り組みを推進します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標		学校教育指導員による研修の充実度 ※研修における４段階評価アンケートの平均				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
						3. 8	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10	
	3. 8						
(１) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P76 No. 04		
① 不祥事根絶にテーマを絞った、校長・教頭を対象とした南部教育事務所長講話を実施した。 ② 臨時的任用教職員対象の服務及び生徒指導に関する研修や、学校教育指導員が各学校を訪問して行う会場校研修において、事故防止に係る研修を実施した。 ③ 各学校において、倫理確立委員会が中心となって、教職員事故防止に向けた取組を行うとともに、教職員事故防止強化運動においては、埼玉県で作成した「不祥事防止研修プログラム」を活用した研修等を実施し、教職員の意識啓発を図った。							
(２) 成果 校長・教頭を対象とした南部教育事務所長講話では、教職員事故の現状と事案の傾向を踏まえながら、どのように教職員の危機管理意識を向上させ、教職員事故が起きない環境を作るか、具体的事例をもとに研修し、管理職の意識向上を図ることができた。臨時的任用教職員対象の研修、学校教育指導員による会場校研修では、教職員としての基本的な姿勢、組織の一員としての役割等について研修を行ったことにより、教職員としての使命感や実践的な指導力を高め、組織としての対応力強化を図ることができた。							
(３) 課題 ① 研修実施の際には、実施内容や実施方法の工夫を行うとともに、どこまで教職員に内容が理解されたのかを、管理職が研修後の記録や面談などを通して把握することが必要である。 ② 重点項目を、不適切な指導の防止、情報・金銭の適正な管理、わいせつ行為の禁止、体罰等の禁止、各ハラスメント*の防止とし、教職員事故ゼロの継続に向けた啓発活動を推進することが必要である。							
(４) 課題に対する次年度以降の方針 ① 不祥事防止に向けた研修計画の作成と、管理職による教職員の変容を見届け、教職員による不祥事防止に努める。 ② 埼玉県で作成した「不祥事防止研修プログラム」や、「不祥事防止のための心理と行動のワークシート」等を活用した教職員個々に落とし込む研修を実施する。また、南部教育事務所長や国立教育研究政策所の職員等、広い知見と専門性をもった講師を招いての研修を実施する。							
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10	
	B						

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	2 1 1
基本方針	2 豊かな心の育成と人権意識の高揚	担当課（館）	
施策	1 豊かな心を育む教育の推進	学校支援課	
主な取組	2 1 1 道德教育の推進		

1 主な取組の概要

道德教育推進教師及び道德主任、道德指導力向上を目指す若手教員等希望者を対象に、「主体的・対話的で深い学び*」となる道德科の授業展開の工夫をテーマに「桶川市道德教育研修会」を開催し、道德教育を推進します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

自己無償評価

指 標	全国学力・学習状況調査*結果で、「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					小 76.1% 中 73.6%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	小 82.1% 中 78.5%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 道徳教育推進教師及び道徳主任、道徳指導力向上を目指す若手教職員等希望者を対象に、「主体的・対話的で深い学び*となる道徳科の授業展開の工夫」をテーマに桶川市道徳教育研修会（参加者 16 人）を開催した。学習における指導法の工夫や評価の仕方等についての理解を深める内容であった。						
(2) 成果						
小・中学校、特別支援学校において、教育活動全体を通じて道徳教育が行えるよう、各学校で道徳教育推進教師を中心とした指導体制づくりについて、情報共有をすることができた。						
(3) 課題						
① 答えが一つではない課題を、児童生徒一人一人が自分自身の問題として捉え向き合い話し合う、「考え議論する道徳」の授業を実践する必要がある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針						
① 桶川市道徳教育研修会や学校訪問等の機会を通して、「考え議論する道徳」の授業実践に対し、指導助言を行っていく。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	2 1 2
基本方針	2	豊かな心の育成と人権意識の高揚	担当課（館）
施策	1	豊かな心を育む教育の推進	学校支援課
主な取組	2 1 2	生徒指導体制の充実	

1 主な取組の概要

児童生徒の発達段階に応じた適切な生徒指導の推進を図るため、組織的な生徒指導体制を確立し、全教職員の共通理解に基づいた指導を行います。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	埼玉県学力・学習状況調査*結果で、「規律ある態度」のうち、8割以上の児童生徒が身に付けている項目数の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					小 72.2% 中 86.1%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	小 72.2% 中 83.3%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 市内小・中学校の生徒指導主任を集めた生徒指導連絡協議会を 5 回実施した。各協議会では、「学校いじめ防止基本方針」の見直しについて、児童生徒自身によるネット利用ルールづくり活動の推進について、長期休業明けの児童生徒の様子等について協議した。						
(2) 成果						
生徒指導連絡協議会では、生徒指導全般についての共通理解を図ることができた。協議した内容については、各学校で共有することで、組織的な生徒指導体制の確立につなげることができた。中学校区ごとに小・中学校間での協議を行うことで、児童生徒についての情報共有を行い、児童生徒を理解した上で、連携を図ることができた。また、令和 4 年 12 月に改訂された生徒指導提要の内容について確認することで、各学校の生徒指導の要である生徒指導主任同士で、生徒指導の在り方についての共通認識を持つことができた。						
(3) 課題						
① 生徒指導連絡協議会における協議のさらなる充実が必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針						
① 生徒指導提要の内容についての理解の促進を図るため、生徒指導連絡協議会の場においての協議の時間を十分確保し、協議を深め、各学校の生徒指導に生かす。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	2 1 3
基本方針	2 豊かな心の育成と人権意識の高揚	担当課（館）	
施策	1 豊かな心を育む教育の推進	生涯学習・スポーツ推進課	
主な取組	2 1 3 読書活動を通じた学習の支援		

1 主な取組の概要

図書館と学校の情報交換を密に行い、団体貸出や図書館見学・体験を通して読書活動に加え、電子書籍を活用した学習の支援を行います。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	270,100 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	269,306 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	全国学力・学習状況調査*結果で、「読書が好き」と回答した児童生徒の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					小 73.0% 中 64.1%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	小 70.3% 中 69.0%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P77-78 No. 05	
① 桶川小学校、朝日小学校へ 98 回、239 冊の図書館資料団体貸出を行った。 ② 市内小学校 4 校の図書館見学を受入れた。 (桶川小学校 83 人、加納小学校 41 人、川田谷小学校 31 人、朝日小学校 61 人) ③ 市内外中学校 4 校の社会体験を受入れた。 (桶川中学校 3 人、桶川西中学校 3 人、加納中学校 2 人、伊奈学園中学校 1 人)						
(2) 成果 団体貸出を行うことで、学校図書館の本以外にも、児童生徒が調べ学習等で活用できる多くの本に触れる機会を提供できた。また、図書館見学や社会体験を通じて、児童生徒に図書館を身近に感じてもらい、図書館の資料や利用方法などについて説明を行うことで、今後の読書や調べものの際に図書館が利用できることを知ってもらうよい機会となった。						
(3) 課題 ① 近年はスマートフォンなどの普及により、学習や読書のスタイルが変化していることから、時代に 応じた取組が必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 読書に親しむ機会の創出のため、学校と調整を行い、学習用端末から電子図書館の書籍を利用できる ようにし、主に朝読や自主学習などでの活用を推進する。そして、電子図書館の資料は数が多い はないため、興味を持った作家やジャンルの本を今度は図書館で借りるという形につなげていく。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	2 2 1
基本方針	2 豊かな心の育成と人権意識の高揚	担当課（館）	
施策	2 いじめ・不登校の未然防止の推進	学校支援課	
主な取組	2 2 1 いじめ防止対策の推進		

1 主な取組の概要

関連する委員会や協議会等を通じて、「いじめ防止対策推進法」、「桶川市いじめ防止等のための基本的な方針」等の内容を周知徹底し、いじめの予防・解消に向けた積極的な認知と早期対応を各学校に促すとともに、研修等の充実を図り、いじめ防止への取り組みを推進します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	1,463 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	1,320 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	いじめの解消率				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					80.8%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	78.0%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P79 No. 06	
① いじめ防止連絡協議会を 2 回実施した。(桶川市関係部課長、桶川市立小・中学校長会長、中央児童相談所長、桶川市 P T A *連合会長、上尾警察署生活安全課長、桶川市青少年問題協議会委員) ② いじめ対策委員会を 3 回実施した。(弁護士、臨床心理士、医師、大学教授等、その他(社会福祉士)) ③ 市内小・中学校で実施した児童生徒主体のいじめ防止取組を、取組集として発行した。						
(2) 成果 いじめ防止連絡協議会では、協議会委員に対し、「桶川市いじめ防止等のための基本的な方針」等の内容の周知徹底を図るとともに、リーフレットやポスターを作成し、配布や掲示を通して、児童生徒のいじめ防止の意識啓発を図ることができた。いじめ対策委員会では、委員の専門的な見地からいじめの実態についての分析及びいじめ防止についての意見をいただき、いじめ防止施策に反映させることができた。児童生徒主体のいじめ防止取組について、児童生徒自らが主体的にいじめはいけないものであると認識できる取組を、各学校で実施することができた。						
(3) 課題 ① いじめ防止連絡協議会やいじめ対策委員会での協議結果を生かした、ポスター作成や児童生徒主体のいじめ防止取組を推進していくことが必要である。 ② 児童生徒主体のいじめ防止取組を継続し、いじめ防止により一層の意識啓発を図ることが必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① いじめ防止リーフレットやいじめ防止ポスターについては、委員の意見を反映させながら、定期的な更新を行い、児童生徒のいじめ防止に対するより一層の意識啓発を図る。 ② 児童生徒主体のいじめ防止取組については、市内全校で継続して実施し、取組集を発行すると共に、映像資料としても記録を残し、活用できる仕組みを整える。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	C					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	2 2 2
基本方針	2 豊かな心の育成と人権意識の高揚	担当課（館）	
施策	2 いじめ・不登校の未然防止の推進	学校支援課	
主な取組	2 2 2 不登校対策の推進		

1 主な取組の概要

「不登校対策プロジェクトリーダー連絡会議」を定期的に開催し、教職員の資質向上に努めるとともに、小中連携を図り不登校の未然防止、早期発見・早期対応の体制の充実を図り、不登校対策を推進します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	92 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	91 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	不登校児童生徒の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					2.5%	減少 ↓
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	3.4%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P79 No. 07	
① 不登校対策プロジェクトリーダー連絡会議を4回実施した。 ② 市内中学校全校に学習支援室を設置し、教室に入りづらい生徒に対し個別支援を行った。 ③ 不登校関係団体連絡会議を1回実施し、情報交換を行った。 ④ 不登校児童生徒及びその保護者向け個別相談会を1回実施し、関係諸団体と個別に相談できる機会を設けた。 ⑤ 不登校支援リーフレットを作成及び配布し、相談窓口等の周知を行った。						
(2) 成果 不登校対策プロジェクトリーダー連絡会議では、不登校の未然防止に関する研修を行い、児童生徒に対する支援方法を周知することで、参加者への教育相談手法の資質向上が図れた。中学校の学習支援室を設置することで、個に応じた指導や支援を行うことができた。不登校児童生徒及び保護者向け個別相談会には30人の参加があり、不登校児童生徒やその保護者に対し、様々な学びの場や相談窓口を周知することができた。						
(3) 課題 ① 市内小・中学校ともに、不登校児童生徒数が依然増加しており、不登校児童生徒に対する支援や、学校復帰、また新規不登校を出現させない取組の充実が必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 不登校を未然に防止するための魅力的な学校づくりを推進し、全ての児童生徒にとって居場所のある学級経営を推進する。不登校児童生徒に対しては、切れ目のない支援として、小学校の学習支援室の設置を拡充していく。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	C					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	2 2 3
基本方針	2 豊かな心の育成と人権意識の高揚	担当課（館）	
施策	2 いじめ・不登校の未然防止の推進	学校支援課	
主な取組	2 2 3 教育相談の推進		

1 主な取組の概要

各学校の相談員による相談活動、桶川市教育センターにおける相談活動、及び適応指導教室*における学習支援等の充実を図り、教育相談を推進します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	573 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	570 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

自己点検計画

指 標	市内相談件数				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					6, 449 件	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	7, 796 件					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P79 No. 08	
① 市内小・中学校全校に 1 人ずつ、相談員を配置した。 ② スクールカウンセラー*を小学校に 1 人配置し、小学校全校を月 1 回巡回した。同じくスクールカウンセラーを中学校に 2 人配置し、2 週間に 1 回巡回した。 ③ 桶川市教育センターにカウンセラーを 2 人、相談員を 4 人配置した。 ④ 学校支援課にスクールソーシャルワーカー*を配置した。 ⑤ 適応指導教室*「けやき教室」に 11 人通室し、個に応じた指導や支援を行った。						
(2) 成果 相談員との延べ相談件数 5, 109 件、スクールカウンセラー*との延べ相談件数 1, 360 件、桶川市教育センターにおける延べ相談件数 1, 109 件、スクールソーシャルワーカー*との相談件数 218 件であり、令和 5 年度の市内相談件数は 7, 796 件であった。児童生徒や保護者の悩みを様々な窓口で相談できるようにすることができた。けやき教室は児童生徒 11 人の利用があり、学校外での学びの場の確保ができた。						
(3) 課題 ① 様々な相談内容に対応するために相談員の質の向上を図ることが必要である。 ② 適応指導教室*が駅西側にあり、駅東側の児童生徒の利用に困難さがあることから、駅の東西の地区にあることが望ましい。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 不登校、ヤングケアラー*、発達の問題など相談内容が多岐にわたるため、個々の状況に即した対応がとれるよう、計画的に研修を実施する。 ② 駅東側へ適応指導教室*を開設し、学びの場のさらなる確保を行う。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	2 3 1
基本方針	2	豊かな心の育成と人権意識の高揚	担当課（館）
施策	3	人権教育の推進	学校支援課
主な取組	2 3 1	学校教育における人権教育の推進	

1 主な取組の概要

児童生徒が人権について考え、人や自分の気持ちを大切にしながら学校生活を楽しめるよう、教職員に対して様々な人権課題に対応した研修を行うことで、正しい理解のもとに学校教育における人権教育を推進します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	209 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	230 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	教職員の人権研修会の参加者の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					12.5%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	14.5%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 児童生徒の人権感覚を育成するために、人権作文を募集した。優秀作品を収録した文集「かがやき」を令和6年1月に発行し、全児童生徒に配付した。(応募総数 4,569 件) ② 教職員対象の研修を実施した。 桶川市人権教育担当者研修会(令和5年7月、11人参加)、桶川市小・中学校教職員等人権教育研修現地研修会(令和5年11月、11人参加)、桶川市立小・中学校管理職等人権教育研修会(令和6年2月、13人参加)、初任者研修会人権研修(令和5年7月、6人参加)						
(2) 成果 各学校で人権教育の全体計画を作成し、各教科等の年間計画に位置づけたうえで、年間を通した人権教育を実施することで、児童生徒の人権意識を醸成した。また、各学校で人権作文に取り組み、人権作文集「かがやき」の発行し、配付、活用することで、人権教育を推進した。さらに、各研修の実施により、教職員の人権問題への理解を深め、人権教育推進の意欲を高めることができた。						
(3) 課題 ① 児童生徒にとって身近な人権問題や社会を取り巻く人権問題等、人権問題は多岐にわたるため、様々な人権問題に対応した学校における人権教育の推進を図ることが必要である。 ② 教職員の人権感覚のより一層の醸成が必要である。特に、経験の浅い教職員に対しての研修を計画的に行うことが必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 児童生徒が「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること」ができる人権感覚を身に付けることがいじめ防止にもつながるため、学校の教育活動全体を通して、一人一人の児童生徒を大切に指導を継続する。 ② 多様な人権問題についての研修を行うことで、教職員の人権感覚の醸成を行う。また、経験の浅い教職員の理解を推進するため、校内研修を充実させる。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	2 3 2
基本方針	2	豊かな心の育成と人権意識の高揚	担当課（館）
施策	3	人権教育の推進	生涯学習・スポーツ推進課
主な取組	2 3 2	社会教育における人権教育の推進	

1 主な取組の概要

一人一人が人権尊重の理念を正しく理解し、生活のなかで実践できるように、家庭、地域、職域など様々な場を対象とする各種事業を実施し、社会教育における人権教育を推進します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	4,752 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	4,375 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	講座の満足度				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					86.2%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	94.4%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 桶川市人権教育推進協議会を2回、研修会を2回実施し、延べ91人の参加があった。 ② 桶川市立集会所事業として各講座の中で人権啓発を実施した。 成人学級講座 6回 延べ589人参加 文化講座 書道教室24回、編み物教室24回、デコパージュ24回 70人参加（延べ1,444人） 夏休み子供教室 2回 延べ11人参加 集会所文化講座作品展 52人来場						
(2) 成果 桶川市人権教育推進協議会では、生活に関わる人権問題や部落差別に関わる問題について、研修会にて講演を開催し、市内における人権啓発、人権意識を高めることができた。桶川市立集会所は4事業を実施することで、子どもから大人まで幅広い年代の人たちに対して、様々な人権課題に焦点をあてた人権啓発を行い、理解を深めていただくことができた。						
(3) 課題 ① 桶川市人権教育推進協議会における研修会は参加者が固定化してきており、毎年新たな参加者を確保していくことが課題である。 ② 桶川市立集会所事業では、より多くの市民に人権啓発を図るために、年齢層問わず、興味関心を示してもらえるよう事業内容を計画、実施していくことが課題である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 市民が人権へ関心を高め、人権問題を自分事として捉え行動していくことができるよう、人権感覚を養う研修や講座等を企画するとともに、市の広報、市のホームページへの掲載だけでなく、市の管理する公共施設等へのチラシの設置、ポスターの掲示を積極的かつ継続的に実施し、市民の目に留まるように工夫して新たな参加者の確保に努める。 ② 年度ごとにテーマを決定し、統一感を持って実施していくとともに、アンケート結果によりそのテーマに対する意識が高まったかどうか確認をしながら、次年度のテーマを決定していく。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	A					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	3 1 1
基本方針	3 健やかな体の育成	担当課（館）	
施策	1 体力向上と学校体育の充実	学校支援課	
主な取組	3 1 1 児童生徒の体力向上		

1 主な取組の概要

子どもたちの運動に対する興味関心を高めるとともに、具体的な目標を定めて児童生徒の体力向上を目指し、体力づくり活動やその指導方法等の内容の充実を図ります。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	新体力テスト*総合評価 5 ランク中上位 3 ランクの割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					小 70.7% 中 77.5%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	小 71.0% 中 78.1%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 児童生徒一人一人の体力を伸ばすために、体力プロフィールシート（体力テストの結果）をもって課題を把握し、体力づくり活動や指導方法の取組を推進した。						
(2) 成果 新体力テスト*総合評価 5 ランク中上位 3 ランクの割合が令和 4 年度と比較して伸びがみられた。 小学校男子…R4 66.3%→R5 67.9% 1.6 ポイント上昇 小学校女子…R4 75.4%→R5 74.1% 1.3 ポイント減少 中学校男子…R4 68.4%→R5 68.4% 0 ポイント（増減なし） 中学校女子…R4 87.6%→R5 88.6% 1.0 ポイント上昇						
(3) 課題 ① 日常生活において体を動かす機会が減少していることから、各学校においては、運動の機会や運動量の確保が必要である。 ② 新体力テスト*の結果を小学校段階から毎年度継続して本人・保護者・学校が共有し、個々の課題を解決するために活用し、児童生徒一人一人の体力を確実に伸ばしていくことが必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 体力については、運動する子どもとしない子どもの二極化が進んでいることから、全ての子どもたちに運動する習慣を身に付けさせるとともに、バランスのとれた運動能力の向上に取り組む。 ② 桶川市体力向上推進委員会の協議を通して、各学校の取組や家庭との連携の状況について、情報共有を行う。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	3 1 2
基本方針	3 健やかな体の育成	担当課（館）	
施策	1 体力向上と学校体育の充実	生涯学習・スポーツ推進課	
主な取組	3 1 2 スポーツに関する連携協定事業の充実		

1 主な取組の概要

各世代それぞれのニーズに応じたきっかけづくりや体力向上等を図るため、埼玉上尾メディックス、日本体育大学、埼玉西武ライオンズとの連携協定を通じ、各種事業を展開します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	270 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	246 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	市内人口に対する連携協定事業に参加した人の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					2.6%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	1.1%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P80 No. 09	
① 埼玉上尾メディックス連携事業を 2 事業実施した。 ② 日本体育大学連携事業を 7 事業実施した。 ③ 埼玉西武ライオンズ連携事業を 2 事業実施した。						
(2) 成果 3 団体との連携事業として、子どものみを対象とした事業を含め、11 事業を実施した。連携事業が認知されたことで、既存事業では前年度よりも参加者が増加した事業もあっただけでなく、新たなニーズに対応することができた。						
(3) 課題 ① 一部の事業では、参加者が毎年異なり、多くの市民にきっかけづくりなどを提供することができていないが、連携事業を通じて、体力向上につながるような取り組みを広く市民に提供することも必要となっている。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 市のホームページやSNS*等の活用だけでなく、幅広い年代の人が訪れる公共施設、スポーツ施設へのチラシの設置、デジタルサイネージ*の活用を図りながら取り組んでいる事業を発信し、今まで事業に参加していない市民への参加を促し、新たな連携事業の掘り起こしとともに体力向上が図られていることがわかるような取り組みを行っていく。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	C					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	3 1 3
基本方針	3 健やかな体の育成	担当課（館）	
施策	1 体力向上と学校体育の充実	生涯学習・スポーツ推進課	
主な取組	3 1 3 スポーツ・レクリエーション団体等との連携		

1 主な取組の概要

各種スポーツ・レクリエーション団体やイベントなどの実行委員会に対して補助金等を交付し、心身の健康の保持・増進や生涯にわたって市民がスポーツに親しむことができる環境づくりをサポートします。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	2,840 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	2,740 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	市内人口に占めるスポーツ・レクリエーション団体の会員数の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					9.4%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	9.2%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P81 No.10	
① スポーツ団体等の支援・育成のため、各団体へ補助金を交付した。 (桶川市スポーツ協会補助金 1,700,000 円、桶川市スポーツ少年団補助金 560,000 円、桶川市レクリエーション協会補助金 240,000 円、桶川市スポーツ推進委員連絡協議会補助金 240,000 円) ② 市内団体の周知のため、市の広報や市のホームページ等に掲載した。 (桶川市スポーツ少年団：市の広報 3 月号、市のホームページ)						
(2) 成果 補助金を交付することにより、スポーツ・レクリエーション団体の活動を支援する中で、スポーツ少年団においては加入者が増加傾向にあるとの報告があった。特に年少時からスポーツをすることで、生涯にわたってスポーツに親しむ可能性も高く、環境づくりのサポートができた。						
(3) 課題 ① コロナ禍以前には市の人口の 10%以上を占めていた、スポーツ・レクリエーション団体の会員数が年々減少している。人口減少社会ではあるが、それ以上の会員数減少に歯止めをかけるような取り組みも必要となっている。 令和 3 年度 7,430 人 令和 4 年度 7,035 人 令和 5 年度 6,888 人						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① スポーツ・レクリエーションなどの団体活動に参加することで、市民の健康の保持・増進が図られる面もあると考えられることから、引き続き活動団体に対する支援とともに、市民向けのイベントを通じて、スポーツ・レクリエーション団体に参加する市民同士の交流の場を設けられるようなサポートを行っていく。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	3 2 1
基本方針	3 健やかな体の育成	担当課（館）	
施策	2 学校給食における食育の推進	学校支援課	
主な取組	3 2 1 食に関する指導の充実		

1 主な取組の概要

「生きる力」を育む「食育*」の指導方法についての理解を深め、子どもたちの発達に応じた指導力の向上を図ります。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	全国学力・学習状況調査*結果で、「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					小 94.2% 中 91.5%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	小 94.8% 中 92.9%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 食育*を通して、健康の維持、友だちと一緒に食べる楽しさ、生産者や調理員等への感謝の気持ちなど、食に関して正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、生涯にわたって健康に生きるための力を育むことを目的とした食育を推進した。						
(2) 成果						
児童生徒の規則正しい食習慣を身に付けさせるための食育*の学習を市内小・中学校で実践した。また、食育に関する研修会を実施し、児童生徒に健康の保持増進には栄養バランスのとれた食事が必要であることを理解させ、自ら管理していく能力を身に付けさせる授業の在り方について、教職員の情報共有を図ることができた。						
(3) 課題						
① 児童生徒に望ましい食習慣を身に付けさせるため、学校・家庭・地域が連携し、食育*の推進をすることが必要である。						
② 栄養教諭をはじめ、学校における食育の推進者の指導力を向上させるため、食に関する指導の全体計画や授業における具体的な指導方法等に関する研修を充実することが必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針						
① 児童生徒が、食に関して正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、生涯にわたって健康に生きるための力を育むことを目的とした食育*を進める。						
② 研修会等を実施し、各学校の食育推進リーダーを育成する。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	3 2 2
基本方針	3 健やかな体の育成	担当課（館）	
施策	2 学校給食における食育の推進	教育総務課	
主な取組	3 2 2 学校給食の充実		

1 主な取組の概要

発育段階にある児童生徒の健康維持のため、地場産物の活用や、特色のある献立による豊かな学校給食の実施に努めるとともに、調理等の委託業者と施設改善や、物資調達などについて協議・連携のうえ、安心・安全な学校給食を安定的に提供します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	575, 127 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	528, 938 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	学校給食における桶川産農産物の利用割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					32. 8%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	32. 1%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P81 No. 11	
① 学校給食調理業務を（公財）桶川市施設管理公社へ委託し、年間を通し計画通りに学校給食を実施した。また、物価高騰の影響により不足が生じる食材料費の支援を行った。 ② 学校給食運営委員会専門部会において、児童生徒の成長に必要な栄養価を第一に考えた献立作成を行うとともに、地産地消*の推進のため、梨やべに花若菜などの減を図った。						
(2) 成果 給食施設設備について、改修や修繕を行い、安全で衛生的な調理環境を確保することができた。献立面においては、安全を第一に配慮したうえで、必要な栄養価やバランスの取れた献立を考え、できる限りの食材を地元から確保した。また、近年の物価高騰や天候不順による野菜の仕入れ状況や価格変動が大きい中で、安定的な給食を提供するため、食材料費の支援を行い学校給食の量や質を落とすことなく提供することができ、前年度と同様の水準を維持することができた。						
(3) 課題 ① 物価高騰の影響がある中、安定的な給食を運営するためには、今後も食材料費の支援が必要となる。 ② 桶川産農産物の利用拡大を図るためには、農産物の安定確保や、各学校への当日配送をどのように実施するのか検討が必要となる。 ③ 牛乳は、児童生徒の栄養確保の役割をはたしているが、飲み残しが令和 5 年度に大きく増加しており、処理費用の削減が求められている。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 引き続き、物価高騰の影響による食材費支援を行うとともに、給食の質の向上に向けた新たな取組について検討を行う。 ② 令和 6 年度 2 学期以降、毎月 1 回、新たに献立の一部に桶川産農産物を使用する「桶川給食の日」を設け、農産物の納入業者と課題の解決に向けて協議を行い、地産地消*をさらに推進する。 ③ 牛乳の飲み残しについて、実態の把握に努めるとともに、効果的な対策について検討を行う。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	4 1 1
基本方針	4 家庭・地域の教育力の向上	担当課（館）	
施策	1 家庭教育の支援	公民館	
主な取組	4 1 1 未就学児の保護者への子育てに関する学習機会の提供		

1 主な取組の概要

公民館等の社会教育施設において、未就学児の保護者に向けた「幼児教育」、「家庭教育」に関する学習機会と、地域とつなげる講座等を提供します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	50 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	45 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

自己無償計画

指 標	幼児・家庭教育セミナーの満足度				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					80.0%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	98.5%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 令和5年度は市内幼稚園・保育所・子育て支援センター等にちらし、ポスターの配布や市のホームページへの掲載し周知を図り、各回とも定員16人に対し18人の申込者数となった。 ② 全5回のセミナーを通して、参加者同士の仲間づくり、保護者の育児ストレスの軽減を図った。 参加人数 第1回 16人 第2回 12人 第3回 12人 第4回 15人 第5回 17人 ※主な参加者は母親・父親						
(2) 成果 参加者に親子のコミュニケーション・関係性づくりの大切さを再認識してもらい、子どもの成長を喜ぶ余裕がなくなってしまった保護者の気持ちを聞き出し、子どもへの適切な言葉のかけ方や促し方を学ぶ機会を提供できた。グループディスカッションも行い、子育てに絡む人間関係のイライラやストレスを吐き出し、悩みを共有することの大切さを再認識してもらうことができた。						
(3) 課題 ① 子育て中の保護者に一人でも多く参加してもらうために、開催日時の見直しや定員の上限引上げ等、参加者数を上げる工夫が必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① アンケートで出た意見を踏まえ、セミナー内容の見直しと開催日時の検討をする。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	A					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	4 1 2
基本方針	4 家庭・地域の教育力の向上	担当課（館）	
施策	1 家庭教育の支援	生涯学習・スポーツ推進課	
主な取組	4 1 2 児童生徒の保護者への子育てに関する学習機会の提供		

1 主な取組の概要

自発的にPTA*活動に取り組みたい保護者へのサポートのほか、家庭における子育て支援につながる学習機会を提供します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	55 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	親の学習講座の満足度				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					小 97.0% 中 97.9%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	小 96.9% 中 96.1%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 市内小学校の就学時健康診断の際に、埼玉県家庭教育アドバイザーを招いて、「小学校生活を親子で楽しく迎えるために」と題して親の学習講座を実施した。 ② 市内中学校の入学説明会の際に、埼玉県家庭教育アドバイザーを招いて、「思春期のお子さんとの接し方～中学校入学にあたって～」と題して親の学習講座を実施した。						
(2) 成果						
市内小学校の就学時健康診断や市内中学校の入学説明会に合わせて実施することで、高い参加率を維持でき、アンケート結果から、「子どもとの接し方や心構え等について参考になった」や「考えるきっかけになった」という意見が聞かれ、内容の満足度も高評価を得られた。						
(3) 課題						
① 親の学習講座に参加したことのある保護者にも、講座に参加して満足していただけるような講座内容や実施方法の選択が課題である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針						
① 参加率が令和 5 年度を上回るよう、講座開催の日時を各学校と調整して設定するとともに、アンケート結果を踏まえて、保護者のニーズに沿った内容の講座となるよう講師と調整を図る。意見交流を行うワークショップやグループトーク等の実施を検討する。また、過去の講座内容の情報についても提供できるよう資料の整備を行う。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	4 2 1
基本方針	4 家庭・地域の教育力の向上	担当課（館）	
施策	2 青少年の健全な育成	生涯学習・スポーツ推進課	
主な取組	4 2 1 生きる力を育む教育の実施		

1 主な取組の概要

明るい家庭づくりのための支援及び地域における教育の充実を目指して、青少年の生きる力を育む教育につながるような、親子が一緒に参加できる事業を展開します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	722 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	722 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

自己点検計画

指 標	親子参加事業の満足度				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					97.1%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	97.3%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 親子ふれあいウォークを実施した。 川田谷地区は10 月 7 日 (土) に実施し、77 人 (子ども 40 人、大人 37 人) の参加があった。 坂田・加納地区は10 月 21 日 (土) に実施し、77 人 (子ども 38 人、大人 39 人) の参加があった。						
(2) 成果 親子で会話をしながら長時間にわたってゆったりとウォーキングをする中で、日頃は気に留めないような地域内の新たな発見を通して、親子ともに地域の魅力を知ることや、知識を深める場を提供することができた。						
(3) 課題 ① 親子参加事業は、ふれあいウォークのみであり、他にも同様のイベントが行われていることから、他イベントの追加を含めた検討を行う必要がある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 親子と一緒に参加できる事業について、調査・研究を進め、新しいイベントがないか検討する。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	4 2 2
基本方針	4 家庭・地域の教育力の向上	担当課（館）	
施策	2 青少年の健全な育成	生涯学習・スポーツ推進課	
主な取組	4 2 2 青少年健全育成のための啓発活動		

1 主な取組の概要

「青少年健全育成市民会議」を中心として、関係機関と連携しながらみんなで青少年を育てる意識を高めるため、様々な場を通じて啓発活動を実施します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	722 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	722 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	巡回指導の実施日数の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					97.5%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	96.9%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 毎月 2 回、街頭や娯楽施設等の巡回指導を実施（6 月から 3 月まで） 30 人 延べ 543 回						
② 祇園祭にて巡回指導を実施 日本ガーディアン・エンジェルスによる研修、実地訓練 30 人						
③ ふれあいフェスタ（5 月）・桶川駅（7 月）・市民まつり（11 月）に非行防止キャンペーンを実施 市民まつり非行防止キャンペーン 26 人						
(2) 成果 啓発活動を通して、巡回指導員が青少年に声かけを行うことで、認知度の向上とともに、青少年の非行防止、健全育成に寄与した。						
(3) 課題 ① 巡回指導員は、市内小・中学校の P T A*から選出されているが、人員の確保が課題となっている。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 巡回指導員をやってみてよかったなど、前向きな意見をいただくことが多いので、その活動内容について周知し、理解を得ながら活動し、P T A*活動の環境の変化にあわせて、負担のないように人員の確保を行っていく。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	4 3 1
基本方針	4 家庭・地域の教育力の向上	担当課（館）	
施策	3 家庭・地域・学校の連携・協働の推進	学校支援課	
主な取組	4 3 1 学校応援団の活動の充実		

1 主な取組の概要

市内小・中学校において児童生徒の学習支援や登下校時等の安全確保、学校の環境整備等、学校の教育活動への協力や支援を行うボランティアを組織し、学校・家庭・地域の連携を充実させます。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	550 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	550 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

自己点検評価

指 標	学校応援団*を含めた学校ボランティアの総数の対児童生徒総数比率				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					16.1%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	16.2%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 全学校で安心安全、学習活動、環境整備などの学校支援活動を行った。 ② 学校応援団*実行委員会（11 校）を年 1 回開催した。						
(2) 成果						
小学校における安心安全への支援では、登下校時の児童生徒を見守ることで安全の確保、事故防止ができた。また、不審者対応など、地域の防犯ができた。市内小・中学校における学習活動の支援では、学校応援団*ボランティアをゲストティーチャーとして招き、凧作りやミシン作業などの学習を行うことができた。中学校における環境整備の支援では、生徒と一緒に除草作業を行うことができた。各学校応援団の取組を活動報告書にまとめ、市のホームページに掲載し、周知することができた。また、学校応援団実行委員会を開催し、学校支援活動方法の工夫等について情報交換を行うことができた。						
(3) 課題						
① コミュニティ・スクール*との連携を図り、学校への必要な支援について学校応援団*の活動につなげることができるようにする。 ② 各学校の応援団がより充実した活動になるよう、学校応援団実行委員会での意見交換や実績報告の内容の検討が必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針						
① コミュニティ・スクール*との連携を図り、適宜学校や学校応援団*への情報提供を行い、指導者を招いた研修を実施し、効果的な連携の在り方について協議する。 ② 学校応援団の中での課題と成果を事前に調査し、委員会の中で協議できるようにする。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	4 3 2
基本方針	4 家庭・地域の教育力の向上	担当課（館）	
施策	3 家庭・地域・学校の連携・協働の推進	生涯学習・ スポーツ推進課	
主な取組	4 3 2 放課後における地域交流の場の充実		

1 主な取組の概要

学校や地域及び家庭が連携することにより、子どもたちが地域社会において心豊かで健康に育まれるよう、市内全小学校において、放課後の安全かつ安心な居場所となるように開室日数を確保し、事業の充実を図ります。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	16,988 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	16,846 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

自己点検計画

指 標	放課後子供教室*の開室日数の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					33.1%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	34.4%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 市内全小学校の児童に向け、放課後子供教室*事業の概要をまとめたチラシを配布した。 ② 参加児童数の増加のため、桶川東小学校において会場となる教室を1教室増やした。 ③ 会場教室が増えたことにより、桶川東小学校の定員を15人から18人に、川田谷小学校の定員を15人から20人に増員した。						
(2) 成果 令和4年度の合計参加人数延べ252人に対し、令和5年度では延べ288人と約12.5%増加した。開室日数も令和4年度は各学校の合計開室日数が844日（平均120日）に対し、令和5年度は879日（平均125日）と順調に増加している。						
(3) 課題 ① 参加児童増加に伴い、安全管理上の観点からスタッフ配置を見直す必要がある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 安全管理員の増員も含め、スタッフ配置の見直しを行う。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	4 3 3
基本方針	4 家庭・地域の教育力の向上	担当課（館）	
施策	3 家庭・地域・学校の連携・協働の推進	公民館	
主な取組	4 3 3 地域コミュニティ・社会教育団体への支援		

1 主な取組の概要

地域の課題やニーズを捉えた講座を開催します。また、自治会などの地域コミュニティや公民館サークルなどが行う自発的な活動を支えるため、「場」の提供、事業協力、協働*事業を実施します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	市内人口に対する公民館利用者の割合				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					90.1%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	87.0%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P82-83 No.12	
① 公民館サークルや自主運営する団体の活動、行政機関の事業などを支えるための「場」を提供した。 ② デジタルデバイド*の解消、インクルーシブ*な社会の実現など、現代的な課題に取り組むため講座を開催した。 ③ 桶川 I T ネットなど公民館で活動する団体、桶川西高等学校・東洋大学などの教育機関、桶川市施設管理公社などの機関との共催で事業を実施した。						
(2) 成果 令和 5 年度は、人口 74,324 人 (R6. 4. 1 時点) に対し年間延べ 64,649 人の利用があった。桶川 I T ネットとの共催事業では 9 講座を系統的に実施することができ、試行的に実施した「特別支援学校・通級指導教室*および大人数での学習が苦手な子」に向けた講座では、インクルーシブ*な社会の実現に向けた課題 (対象者や実施方法など) を得ることができた。共催事業を実施したことによってそれぞれの課題を共有することができ、受講者の幅 (年齢層、志向など) も広げることができた。						
(3) 課題 ① 新規利用者や団体を増やす工夫が必要。 ② 令和 5 年度に試行的に取り組んだ特別支援学校等に通う児童向けの講座は、予想以上の需要が確認できたことから、今後もニーズを把握し改善に努める必要がある。 ③ 事業実施後の情報交換を丁寧に行い、次年度以降の実施に向けて具体的な対策を共有する必要がある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 新規公民館利用者の増加に向け、サークル化につながる講座の実施や地域コミュニティの利用促進を図る。 ② 今後、事業をさらに進めるため対象者のニーズの把握や講座内容がより良くなるよう再検討を図り、インクルーシブ*な教育につながることを目指す。 ③ より多様な主体との共催事業を実施し、講座の質、量の充実を図る。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	C					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	5 1 1
基本方針	5 生涯にわたる学びとスポーツの支援	担当課（館）	
施策	1 生涯学習の推進	生涯学習・ スポーツ推進課	
主な取組	5 1 1 生涯学習の場の提供と人材発掘		

1 主な取組の概要

多くの市民等が進んで地域の生涯学習*の場に参加できるよう、学習意欲のニーズに応えることができるような講座情報を分かりやすく提供するとともに、指導者として地域での生涯学習の場を提供できる人材発掘に取り組めます。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	36 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	桶川み・ら・い塾人材バンクの新規登録者数				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					2 人	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	3 人					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 市の広報、市のホームページへ学習情報を掲載した。また、市内の公共施設にリーフレットを設置し、周知を行った。 桶川み・ら・い塾登録者数：個人 39 団体 11						
(2) 成果 人財バンクについては、市の広報、市のホームページ等の周知の結果、3 人の方の新規登録があった。また、令和 4 年度は新型コロナウイルスの影響もあり、利用が 0 件であったが、令和 5 年度は 5 件の利用があり、計 113 人の参加があった。 話芸（講談）：32 人、スポーツウェルネス吹矢：20 人、ビーズアクセサリー製作：16 人、おもしろ理科実験教室：30 人、キャンドル：15 人						
(3) 課題 ① 学習活動に取り組もうとする市民に対し、様々なプログラムが提供できるよう、登録者の増加と、登録分野の充実を図る。 ② 登録していても、利用されないものがある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 人財の育成に対して必要な支援を行い登録者数の増加を図るとともに、人財バンク制度の P R を行い人財の発掘に努める。新しく登録があった場合は、先頭ページにするなど見やすさの工夫を行う。 ② 登録内容について調整し、変更や見直しを行う。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	5 1 2
基本方針	5	生涯にわたる学びとスポーツの支援	担当課（館）
施策	1	生涯学習の推進	生涯学習・ スポーツ推進課
主な取組	5 1 2	芸術文化活動への支援	

1 主な取組の概要

個人や団体等が取り組む芸術文化活動について、成果を発表し、広くその活動が認知されるような支援をします。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	700 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	565 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	おけがわ市民芸術文化祭の参加団体数				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					34 団体	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	38 団体					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① おけがわ市民芸術文化祭実行委員会に、補助金 564,423 円の交付を行った。 ② 「広報おけがわ」で、おけがわ市民芸術文化祭の開催について広報を行った。						
(2) 成果 参加団体は、市の広報及び市民ホールのホームページで募集を行っている。前年度参加団体に出演の意向確認を行うほか、芸術文化祭の開催が定着したことで、参加団体の増加につながり、34 団体から 38 団体に増加した。						
(3) 課題 ① 市民が、芸術文化に関心を抱くための周知活動とその活動に参加しやすい環境づくり。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 市民の芸術文化に関する活動を支援するだけでなく、市民が芸術文化に触れる機会を創出するために市の広報や市のホームページを活用しての周知活動の支援を行い、イベントに来てくれて興味を持ってくれた人が体験できるような機会作りを行うことも関係団体と調整していく。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	A					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	5 2 1
基本方針	5 生涯にわたる学びとスポーツの支援	担当課（館）	
施策	2 多様な学習や活動の機会の充実	生涯学習・ スポーツ推進課	
主な取組	5 2 1 学習機会の創出		

1 主な取組の概要

施設や人、各種連携機関など、市が有している財産を様々な形で活用したイベント等を実施して、多様な学びの場と学習機会の創出を図ります。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	170 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	80 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	講座等に参加した人の満足度				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					大学 70.9% 講座 92.5%	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	大学 70.5% 講座 95.2%					
(1) R5 年度取組状況			資料	☑あり ☐なし	P84-85 No. 13	
① 桶川市民大学は、多様な学習機会を提供するため、「生き甲斐をもって生きる」をテーマに全 9 回の講座を行い、受講者 44 人、修了者数 42 人（6 回以上の出席者）、出席率 84.8%であった。 ② 職員出前講座は、市民の学習環境の向上を図りつつ、市民と行政との交流を深めることを目的に、市職員が各部署の分掌事務に基づく学習メニューを用意し、市民からの要請により講師（市職員）を派遣して講座を開催した。令和 5 年度は 28 講座を開設した。実施回数は 17 回、参加延べ人数は 881 人であった。						
(2) 成果 桶川市民大学は、桶川の歴史を学ぶだけではなく、大学の教授等を講師に招き、多様で豊かな教養を提供することができた。また、職員出前講座は、市民と行政の交流を促進し、市民の市政に対する理解を深めるとともに、学習機会の充実と意識啓発を図り、生涯学習*のまちづくりを推進することができた。						
(3) 課題 ① 桶川市民大学は、受講者の平均年齢も高く、前年に引き続いて受講する人の割合も高めであることも 70%程度の満足度の一因となっている。 ② 職員出前講座は、特製メニューも含めて開設した 28 講座のうち、12 講座が開催され、利用されなかった講座が多くあることから、講座内容の見直しを検討する必要がある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 桶川市民大学は、アンケート結果等を参考にし、受講者の満足度が基準値を上回るような講座内容を設定する。 ② 職員出前講座メニューの見直しに着手する。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	5 2 2
基本方針	5 生涯にわたる学びとスポーツの支援	担当課（館）	
施策	2 多様な学習や活動の機会の充実	歴史民俗資料館	
主な取組	5 2 2 歴史民俗資料館展示・講座の充実		

1 主な取組の概要

常設展示の運営と並行して、企画展や特別展を実施し、幅広く桶川の歴史と文化を紹介します。また、識者等による常設展、企画展や特別展に関連した講座や講演会などを開催して見学者の理解を深めます。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	52,111 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	51,681 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

自己点検計画

指 標	来館者の満足度				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					—	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	—					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 展示室及び展示ホールの常設展示が令和 6 年 3 月に完成した。 ② 令和 6 年 4 月のリニューアルオープンに向けて、展示テーマを「台地と道」とし、高井遺跡集落復元模型、大宮台地模型、中山道模型を使用したデジタル展示用コンテンツの製作、国指定重要文化財の木造阿弥陀如来坐像のレプリカ製作、大型スクリーンによる映像展示などを製作した。これらに加えて、多くの所蔵資料を展示し、原始・古代から現代に至る桶川の歴史と文化を紹介する常設展示を完成させた。						
(2) 成果 桶川市の歴史や文化をよりわかりやすく学べる場所として、展示リニューアル工事が令和 6 年 4 月完成し、展示や講座を開催することにより、本市の歴史や文化の情報を市民等に広く提供できる場が整備された。なお、令和 5 年度の取組としては、展示室及び展示ホールの常設展示等を整備したものであり、歴史民俗資料館は休館中であったため、「評価」はしないこととする。						
(3) 課題 ① 小・中学生など若年層の利用が少ない。 ② 令和 7 年 3 月オープン予定の「道の駅べに花の郷おけがわ」と連携し、観光まちづくり及び川田谷地区のコミュニティ拠点づくりのために、地域に伝承される芸能・文化などの資源を活用した事業展開が必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 夏休み期間などに若年層を対象にした講座を開催して、若年層が利用しやすい事業を実施する。 ② 道の駅とのアクセス路、案内板などを整備し、市内外の人たちが来館しやすい環境を整備するとともに、道の駅事業者と連携して、本市の歴史や文化の知識が深められるイベントを実施する。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	/					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	5 2 3
基本方針	5	生涯にわたる学びとスポーツの支援	担当課（館）
施策	2	多様な学習や活動の機会の充実	公民館
主な取組	5 2 3	ライフステージに応じた講座の開催	

1 主な取組の概要

持続可能な社会*づくりに向けて、自らがその担い手となれるよう講座を開催し、子育て期、児童期、生徒期、成人期、シニア期に応じた学習活動を支援します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	1,200 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	1,056 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	講座参加者数				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					3,268 人	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	3,475 人					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P86-87 No. 14	
① 市民を対象に、公民館主催講座を 4 館合計で 89 講座（＋中止 1 講座）実施した。 ② 子育て中の保護者を対象に、幼児・家庭教育セミナー（全 5 回、延べ 72 人参加）を実施した。 ③ 高齢者を対象に、ふれあい学級（全 9 回、延べ 1,332 人参加）を実施した。						
(2) 成果 市民向け講座、子育て中の保護者を対象とした幼児・家庭教育セミナー及び高齢者を対象としたふれあい学級等、幅広い年齢層・ライフステージ*に応じた講座を開催し、全体で 3,475 人の参加者があった。夏休み期間中に開催する小学生向け講座の夏休み子どもワールドは盛況で、4 館で 32 講座（うち 26 講座で申込定員超え）、延べ 653 人の参加となり、夏休み期間中はほぼ毎日、どこかの館で講座を実施している状況を継続することができた。						
(3) 課題 ① 一部人気のある講座は毎年開催しているが、内容のマンネリ化を防ぐ工夫が必要である。また、特定の館、特定の講座に参加者の偏りが生じないように、回数や開催場所を調整する必要がある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 新規講座の計画及び参加者アンケートの意見も踏まえて講座内容や日程等を見直し、前年踏襲の内容が増えすぎないように注意する。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	A					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	5 3 1
基本方針	5 生涯にわたる学びとスポーツの支援	担当課（館）	
施策	3 スポーツ・レクリエーション活動の普及	生涯学習・ スポーツ推進課	
主な取組	5 3 1 スポーツ指導者の育成		

1 主な取組の概要

市民の誰もが気軽にスポーツに親しめる環境をつくるため、非常勤特別職であるスポーツ推進委員*や（公財）日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度に基づいた指導者が幅広く活躍できるように支援します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	560 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	560 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

自己点検計画

指 標	スポーツ少年団の指導者の人数				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					122 人	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	116 人					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① スポーツ少年団の保護者及びスポーツ推進委員*向けに講師を招き研修会を実施した。 R5. 11. 25 講義「テーピングの基礎知識について」実技「足関節捻挫の発生予防テーピング」 対象：母集団*研修 参加人数：27 人 R6. 2. 26 講義「スポーツハラスメント*とは何か～その原因と対策について～」 対象：スポーツ少年団団員の保護者・スポーツ推進委員* 参加人数：22 人						
(2) 成果 日頃からスポーツ科学やスポーツ栄養学を研究している講師から、テーピング使用や子どもの捕食に関する講義を受け、ケガの防止につながるテーピング使用や子どもの身体づくりの材料となる栄養素の摂取に関して学んでいただき、指導者として活躍いただける知識の習得などが図られた。						
(3) 課題 ① スポーツ少年団の指導者は高齢化が進んでいることから、急激に指導者数が減少したことが理由となって活動休止とならないよう、後継者を育成する必要がある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① スポーツ少年団の活性化と指導者の活動支援を継続するとともに、後継者の育成を図るための研修会等を実施する。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	C					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	5 3 2
基本方針	5 生涯にわたる学びとスポーツの支援	担当課（館）	
施策	3 スポーツ・レクリエーション活動の普及	生涯学習・ スポーツ推進課	
主な取組	5 3 2 スポーツ施設の充実		

1 主な取組の概要

スポーツ及びレクリエーション活動が可能な施設を適切に維持管理し、幅広く市民に活用していただける環境づくりを行います。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	新たなスポーツ施設の整備数				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					—	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	0					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P88 No. 15	
① 指定管理者によるスポーツ施設の点検において、活動ができなくなならないような簡易的な修繕を必要に応じて実施し、施設の適切な維持管理を行った。 ② 日出谷地区公共施設等整備事業（コミュニティ拠点整備）がスポーツ施設を含めた計画となるよう所管部署と情報交換を行った。						
(2) 成果 サン・アリーナの柔道場の畳を総入れ替えすることで、引き続き安心してスポーツ活動が取り組めるような維持管理に努めることができた。また、日出谷地区の公共施設等整備事業に関して、令和 5 年 8 月から 9 月にかけて実施した市民アンケート（対象者 1, 000 人中の回答率 46. 8%）に「地域のコミュニティ機能や生涯学習機能の向上のために、どのような場が必要だと思いますか」の項目に「運動や体操などの体を動かせる場」の設問加えたところ、アンケートの結果では運動や体操などの体を動かせる場を希望するというニーズを把握することができた。						
(3) 課題 ① 体育施設に求められる市民からのニーズに対応するためには、既存施設の維持管理だけでなく、施設の更新やあり方を含めた市域内での施設配置のバランスやコストを検討する必要がある。 ② 新たなスポーツ施設を整備する場合、スポーツ施設及び駐車場等は広い敷地が必要となるだけでなく、騒音や渋滞など近隣住民への配慮なども必要となる。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 既存施設の修繕を引き続き実施し、適正な維持管理に努めるだけでなく、既存施設の修繕計画と並行して新たな施設を計画できないか検討を行う。 ② 日出谷地区の公共施設は住宅が多い地域に計画されていることから、施設内にスポーツ施設を設けてもらうだけでなく、近隣住民への配慮も盛り込んでいただけるような計画となるよう、所管部署と調整を行う。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	C					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	6 1 1
基本方針	6	伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進	担当課（館）
施策	1	文化財の保護及び保存・活用の推進	文化財課
主な取組	6 1 1	民俗芸能伝承状況調査の実施	

1 主な取組の概要

各民俗芸能の紹介や発表機会の創出等に努めるとともに、地域に伝承されている行事や祭礼、民俗芸能などを調査し、記録保存等を行います。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	660 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	600 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

自己点検計画

指 標	調査実施の件数				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					1 件	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	8 件					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P89-90 No. 16	
① 市内の各地域に伝承されている指定及び未指定の民俗行事や祭礼等の開催状況を調査し、現在の活動状況の聞き取りや映像等による記録保存を 8 件行った。(諏訪の万作外 7 件) ② 市内の民俗芸能伝承団体に対して、その保存、伝承及び後継者育成に要する経費に充てるための費用として、桶川市民俗芸能保存事業交付金を 20 件交付した。(市指定「岡村の万作」外 19 件) ③ 市内で活動をしている民俗芸能の伝承団体に 20 団体に対して、コロナ後の活動状況の把握や後継者育成のための支援策を検討するためのアンケートを実施した。						
(2) 成果 市内の民俗行事は新型コロナウイルスの影響に伴い約 3 年ぶりの再開であったが、長期の活動休止期間があったにも拘わらず、各伝承団体が地域の伝統行事を継承していくために真摯に取り組む姿勢を見ることができた。また、交付金を交付することで、活動休止の間でも再開への意欲が低下しないよう、継承活動に対する意欲の維持に資することができた。さらに、アンケートの実施により、今後の民俗芸能伝承団体に対する支援策を検討するにあたっての 20 団体の現状等を把握することができた。						
(3) 課題 ① 芸能の継承には年間を通じての活動が必要であるが、公演元となる地元の祭礼は年 1 回程度であることから、演出の機会が著しく少ない状況にある。 ② 会員の高齢化や担い手の不足により、活動が困難な団体（令和 5 年度は 3 団体）や解散を余儀なくされた団体（令和 5 年度は 1 団体）もあり、後継者育成や継承のための支援が必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 市内を始め、県内、県外の各イベント出演の紹介や仲介、教育委員会が主体となった新たな公演機会を創出する。 ② これまでの慣習に拘らない地域の垣根を超えた新しい継承の在り方など、後継者育成や継承支援に取り組んでいる他市町村の事例について情報収集を行い、市内各団体との情報共有を行う。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	6 1 2
基本方針	6	伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進	担当課（館）
施策	1	文化財の保存・活用の推進	文化財課
主な取組	6 1 2	文化財の調査と指定	

1 主な取組の概要

市内に所在する「有形文化財*」、「無形文化財*」、「民俗文化財*」、及び「記念物」の調査を継続的に
行い、学術的価値の高いものや市の歴史上重要なものを指定文化財に指定し、保存と活用を図ります。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	1,715 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	1,460 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

自己点検計画

指 標	指定の件数				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					55 件	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	55 件					
(1) R5 年度取組状況			資料	☒ あり ☐ なし	P91-94 No.17	
① 指定されている文化財の再調査を 2 件実施した。 ② 指定文化財の修理等保存に必要な事業に対して、桶川市文化財保存事業費補助金を 3 件交付した。 ③ 指定文化財の管理又は維持に要する費用として、桶川市指定文化財保存管理交付金を 28 件交付した。 ④ 文化財説明板の改修 2 件（市指定「諏訪神社本殿」外 1 件）、文化財マップ「桶川の文化財を訪ねて」の作成を行った。						
(2) 成果 指定文化財の再調査を実施したことで、これまで知られていなかった新たな事実が得られ、文化財の価値を深める貴重な情報を蓄積することができた。また、補助金や交付金を交付することで、指定文化財の管理にかかる所有者の負担を軽減し、文化財の保存・活用に資することができた。さらに、文化財説明板の改修や文化財マップを作成し広く配布することで、見学者の理解や知識を深め、文化財の周知に供することができた。						
(3) 課題 ① 多くの未指定文化財は常に消失等の危機に面していることから、未指定の文化財をリスト化した「指定文化財候補リスト」を基に計画的な指定を行い、文化財の保護を進めることが必要である。 ② 指定され保護対象となった文化財であっても、当該文化財の老朽化や所有者の事情等により、維持管理が難しくなっているものがある。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 文化財指定に向けた文化財調査の中・短期的な計画を策定し、調査を実施する。 ② 文化財の現状を把握するため、定期的に所有者と連絡を取り文化財調査を実施するとともに、指定後の保存方法や補助金制度の見直しなどを行い、所有者の負担軽減に向けた維持又は管理に要する経費を交付する。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	6 2 1
基本方針	6	伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進	担当課（館）
施策	2	博学連携事業の推進	歴史民俗資料館
主な取組	6 2 1	教職員向け講座の実施	

1 主な取組の概要

教職員が地域の歴史に関する見識を深め、地域学習等の指導に役立てられるよう、教職員を対象とした講座や体験を実施します。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	教職員講座等の開催回数				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					1 回	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	1 回					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 「教職員向け講座」については、歴史民俗資料館において展示や収蔵庫に保管する資料の見学などを通じた実践的に学ぶ講座を予定しているが、令和 5 年度は改修工事で休館中であったため未実施となった。 ② 7 月に新任教職員を対象とした研修を、館外（中山道周辺）で実施した。						
(2) 成果						
桶川公民館での座学後、実際に中山道を散策し、その歴史や文化財に触れた。桶川の歴史の一端を理解することで、今後の児童生徒への指導に資する知識の習得ができた。						
(3) 課題						
① 歴史民俗資料館で実施できる教職員向け講座が、学習指導要領*に則した内容となるよう関係課と協議が必要である。 ② 実地研修は中山道桶川宿の歴史や文化の研修に偏る傾向があるため、各学校が所在する地域に密着した研修内容が必要となる。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針						
① 初任者や社会科担当の教職員を中心に「桶川市の歴史や文化の説明」、「授業に活用できる資料案内」、「収蔵庫バックヤード見学」、「べに花染め体験」などの講座を実施し、桶川市の歴史や文化を伝える。 ② 各地域の歴史や文化を学び活用するための地域学習や実地研修を取り入れる。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	B					

VI 点検評価の結果

		主な取組番号	6 2 2
基本方針	6	伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進	担当課（館）
施策	2	博学連携事業の推進	学校支援課
主な取組	6 2 2	年間指導計画に基づく調べ学習の推進	

1 主な取組の概要

社会科、総合的な学習の時間等の学習活動において、博物館等の資料や施設を活用した調べ学習に取り組んだり、学芸員をゲストティーチャーとして招き、専門性を生かした指導を受けたりしながら、児童生徒の深い学びへつなぎます。

2 予算・決算

年 度	R5	R6	R7	R8	R9	R10
予 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円
決 算 額	0 千円	千円	千円	千円	千円	千円

3 自己点検評価

指 標	歴史民俗資料館を活用した出前講座等の実施回数				基準値 (R4 年度)	目標 (R10 年度)
					3 回	上昇 ↑
実 績	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	4 回					
(1) R5 年度取組状況			資料	☐ あり ☒ なし	—	
① 市内小・中学校 4 校において、歴史民俗資料館の職員による出前講座を 4 回実施した。 桶川 中 学 校 1 年 「桶川の歴史について」(総合的な学習の時間、参加者 154 人) 川田谷小学校 3 年 「べに花染め体験」(総合的な学習の時間、参加者 26 人) 桶川西小学校 3 年 「昔のくらし体験」(社会、参加者 139 人) 桶川 小 学 校 5 年 「べに花染め体験」(総合的な学習の時間、115 人)						
(2) 成果 学校の要望に応じて、歴史民俗資料館の職員が出前講座を実施することにより、児童生徒が専門的な話を聞いて学びを深めることや、体験的な学びをすることができた。						
(3) 課題 ① 出前講座の実施により、さらに深い学びや体験的な学習につながる内容を取り入れ、出前講座を取り入れる学校を増やしていくことが必要である。						
(4) 課題に対する次年度以降の方針 ① 校長会議等で出前講座について周知することで、実施校を増やしていく。べに花染め体験や昔のくらし体験以外にも、学校の指導計画に沿った講座内容について学校と検討しながら実施できるように支援していく。専門的な見地からの指導を受けることで、児童生徒の桶川市に対する愛着を高められるようにする。						
評 価	R5	R6	R7	R8	R9	R10
	A					

Ⅶ 自己評価一覧

Ⅶ 自己評価一覧

1 評価基準

記号	評価内容	評価数					
		R5	R6	R7	R8	R9	R10
A	取組により十分な成果が得られ、実績も順調である	7					
B	取組により一定の成果が得られ、実績も概ね順調である	32					
C	取組により一定の効果は得られたが、実績は不調である	7					
D	取組・成果ともに十分とはいえず、実績も不調である	0					
/	やむを得ない事情により評価対象外	1					

2 評価一覧

基本方針 / 施策 / 主な取組 / 指標				基準値	目標	実績 / 評価					
						R5	R6	R7	R8	R9	R10
1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実											
1 教育環境の整備・充実											
111 学校施設の環境整備											
小・中学校の施設の満足度				—	上昇	— B					
112 学校 ICT 環境の整備											
児童生徒 1 人当たりの教育用コンピューターの台数				1.2 台	維持	1.1 台 B					
113 きめ細やかな指導・支援の充実											
全国学力・学習状況調査結果で、「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童生徒の割合				小 63.5% 中 58.6%	上昇	小 65.1% 中 60.3% B					
2 学校の組織運営の改善											
121 地域とともにある学校づくりの推進											
各学校における学校運営協議会の充実度				—	上昇	3.2 B					
122 学校における働き方改革の推進											
時間外在校等時間が 45 時間以内の教職員の割合				小 83.6% 中 40.9%	上昇	小 79.2% 中 43.4% C					
3 一人一人の確かな学力を育む教育の推進											
131 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業の改善											
全国学力・学習状況調査結果の正答率で、全国平均を上回る学習指導要領の領域等の割合				91.7%	上昇	90.9% B					
132 ICT を効果的に活用した授業の充実											
ICT を授業で活用している教職員の割合				81.3%	上昇	95.4% A					
4 時代の変化に対応する教育の推進											
141 スマート社会に対応できる児童生徒の育成											
市主催の ICT 機器活用研修会における参加者の理解の割合				—	上昇	84.0% B					
142 主体的に行動できる能力を育てる環境教育の推進											
全国学力・学習状況調査結果で、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した児童生徒の割合				小 75.1% 中 61.3%	上昇	小 75.1% 中 61.6% B					
143 グローバル化に対応する国際理解教育の推進											
埼玉県学力・学習状況調査結果の中学生英語正答率で埼玉県平均を上回る生徒の割合				50.9%	上昇	52.0% B					
5 主体的に進路を切り拓く力を育むキャリア教育の推進											
151 キャリア教育の推進											
全国学力・学習状況調査結果で、「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合				小 83.7% 中 63.7%	上昇	小 83.6% 中 66.0% B					
152 進路意識の啓発・高揚											
社会体験チャレンジ実施後調査における、生徒の進路に対する意識高揚の割合				—	上昇	84.7% B					

Ⅶ 自己評価一覧

基本方針／施策／主な取組／指標			基準値	目標	実績／評価					
					R5	R6	R7	R8	R9	R10
6 インクルーシブ教育の推進										
161 特別支援教育の推進										
通常学級に在籍する特別の教育的支援が必要な児童生徒の個別指導計画作成率			87.8%	上昇	100%					
					A					
162 児童生徒への言語指導の充実										
ことばの教室連絡協議会に参加したことにより「言語指導への知識理解が深まった」と回答した教職員の割合			－	上昇	85.7%					
					B					
7 教職員の資質能力の向上										
171 教職員研修の充実										
初任者育成状況授業見学の5段階評価の平均点の1学期の数値と3学期の数値の差			+0.1	上昇	+0.2					
					B					
172 教職員による不祥事の根絶に向けた取組の推進										
学校教育指導員による研修の充実度			3.8	上昇	3.8					
					B					
2 豊かな心の育成と人権意識の高揚										
1 豊かな心を育む教育の推進										
211 道徳教育の推進										
全国学力・学習状況調査結果で、「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合			小 76.1% 中 73.6%	上昇	小 82.1% 中 78.5%					
					B					
212 生徒指導体制の充実										
埼玉県学力・学習状況調査結果で、「規律ある態度」のうち、8割以上の児童生徒が身に付けている項目数の割合			小 72.2% 中 86.1%	上昇	小 72.2% 中 83.3%					
					B					
213 読書活動を通じた学習の支援										
全国学力・学習状況調査結果で、「読書が好き」と回答した児童生徒の割合			小 73.0% 中 64.1%	上昇	小 70.3% 中 69.0%					
					B					
2 いじめ・不登校の未然防止の推進										
221 いじめ防止対策の推進										
いじめの解消率			80.8%	上昇	78.0%					
					C					
222 不登校対策の推進										
不登校児童生徒の割合			2.5%	減少	3.4%					
					C					
223 教育相談の推進										
市内相談件数			6,449 件	上昇	7,796 件					
					B					
3 人権教育の推進										
231 学校教育における人権教育の推進										
教職員の人権研修会の参加者の割合			12.5%	上昇	14.5%					
					B					
232 社会教育における人権教育の推進										
講座の満足度			86.2%	上昇	94.4%					
					A					

Ⅶ 自己評価一覧

基本方針 / 施策 / 主な取組 / 指標			基準値	目標	実績 / 評価					
					R5	R6	R7	R8	R9	R10
3 健やかな体の育成										
1 体力向上と学校体育の充実										
311 児童生徒の体力向上										
新体力テスト総合評価 5 ランク中上位 3 ランクの割合	小 70.7% 中 77.5%	上昇	小 71.0% 中 78.1% B							
312 スポーツに関する連携協定事業の充実										
市内人口に対する連携協定事業に参加した人の割合	2.6%	上昇	1.1% C							
313 スポーツ・レクリエーション団体等との連携										
市内人口に占めるスポーツ・レクリエーション団体の会員数の割合	9.4%	上昇	9.2% B							
2 学校給食における食育の推進										
321 食に関する指導の充実										
全国学力・学習状況調査結果で、「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合	小 94.2% 中 91.5%	上昇	小 94.8% 中 92.9% B							
322 学校給食の充実										
学校給食における桶川産農産物の利用割合	32.8%	上昇	32.1% B							
4 家庭・地域の教育力の向上										
1 家庭教育の支援										
411 未就学児の保護者への子育てに関する学習機会の提供										
幼児・家庭教育セミナーの満足度	80.0%	上昇	98.5% A							
412 児童生徒の保護者への子育てに関する学習機会の提供										
親の学習講座の満足度	小 97.0% 中 97.9%	上昇	小 96.9% 中 96.1% B							
2 青少年の健全な育成										
421 生きる力を育む教育の実施										
親子参加事業の満足度	97.1%	上昇	97.3% B							
422 青少年健全育成のための啓発活動										
巡回指導の実施日数の割合	97.5%	上昇	96.9% B							
3 家庭・地域・学校の連携・協働の推進										
431 学校応援団の活動の充実										
学校応援団を含めた学校ボランティアの総数の対児童生徒総数比率	16.1%	上昇	16.2% B							
432 放課後における地域交流の場の充実										
放課後子供教室の開室日数の割合	33.1%	上昇	34.4% B							
433 地域コミュニティ・社会教育団体への支援										
市内人口に対する公民館利用者の割合	90.1%	上昇	87.0% C							

Ⅶ 自己評価一覧

基本方針 / 施策 / 主な取組 / 指標	基準値	目標	実績 / 評価						
			R5	R6	R7	R8	R9	R10	
5 生涯にわたる学びとスポーツの支援									
1 生涯学習の推進									
511 生涯学習の場の提供と人材発掘									
桶川み・ら・い塾人材バンクの新規登録者数	2 人	上昇	3 人 B						
512 芸術文化活動への支援									
おけがわ市民芸術文化祭の参加団体数	34 団体	上昇	38 団体 A						
2 多様な学習や活動の機会の充実									
521 学習機会の創出									
講座等に参加した人の満足度	大学 70.9% 講座 92.5%	上昇	大学 70.5% 講座 95.2% B						
522 歴史民俗資料館展示・講座の充実									
来館者の満足度	—	上昇	— /						
523 ライフステージに応じた講座の開催									
講座参加者数	3,268 人	上昇	3,475 人 A						
3 スポーツ・レクリエーション活動の普及									
531 スポーツ指導者の育成									
スポーツ少年団の指導者の人数	122 人	上昇	116 人 C						
532 スポーツ施設の充実									
新たなスポーツ施設の整備数	—	上昇	0 C						
6 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進									
1 文化財の保護及び保存・活用の推進									
611 民俗芸能伝承状況調査の実施									
調査実施の件数	1 件	上昇	8 件 B						
612 文化財の調査と指定									
指定の件数	55 件	上昇	55 件 B						
2 博学連携事業の推進									
621 教職員向け講座の実施									
教職員講座等の開催回数	1 回	上昇	1 回 B						
622 年間指導計画に基づく調べ学習の推進									
歴史民俗資料館を活用した出前講座等の実施回数	3 回	上昇	4 回 A						

VIII 自己点検評価資料

Ⅷ 自己点検評価資料

No. 01		
主 な 取 組	1 1 1 学校施設の環境整備	掲載ページ
担当課（館）	教育総務課	20

■学校教育施設概要

小学校（7校）

（単位：㎡）

学校名	学校敷地		校 舎		屋内運動場 面 積	プールの
	全体面積	運動場面積	鉄筋コンクリート造	鉄骨その他		
桶川小学校	23,830	16,822	7,553	86	1,003	有
加納小学校	22,444	14,549	5,022	88	960	有
川田谷小学校	19,548	12,690	3,807	229	926	有
桶川西小学校	22,325	10,311	6,372	75	960	有
桶川東小学校	18,094	9,651	6,441	21	963	有
日出谷小学校	22,377	8,740	4,861	38	933	有
朝日小学校	16,194	7,808	4,579	20	878	有（屋上）
合 計	144,812	80,571	38,635	557	6,623	

中学校（4校）

（単位：㎡）

学校名	学校敷地		校 舎		屋内運動場 面 積	プールの
	全体面積	運動場面積	鉄筋コンクリート造	鉄骨その他		
桶川中学校	30,058	15,625	5,903	56	1,224	有
桶川東中学校	24,826	16,392	6,779	85	1,123	有
桶川西中学校	33,673	16,288	6,694	487	1,204	有
加納中学校	29,782	21,683	5,923	82	1,241	有（屋上）
合 計	118,339	69,988	25,299	710	4,792	

Ⅷ 自己点検評価資料

No. 02		
主 な 取 組	1 5 2 進路意識の啓発・高揚	掲載ページ
担当課（館）	学校支援課	31

■職場体験 対象：中学2年生

学校名	事業者数	期間	備考
桶川中学校	40事業所	R5. 11. 15（水）から 11. 17（金）	
桶川東中学校	39事業所	R5. 10. 18（水）から 10. 21（金）	インフルエンザ流行に伴う学級閉鎖のため、実施を中止
桶川西中学校	47事業所	R5. 9. 6（水）から 9. 8（金）	台風の影響により、3日目の実施を中止
加納中学校	39事業所	R5. 7. 4（火）から 7. 6（木）	

■職業人講演 対象：中学全学年

学校名	開催日	講演者
桶川中学校	R5. 10. 27（金）	五穀祭菓をかの女将 榊 萌美 様
桶川東中学校	R5. 12. 13（水）	株式会社寿技研 代表取締役 高山 誠一郎 様
桶川西中学校	R5. 11. 21（火）	プロフェッショナルレフェリー 中村 太 様
加納中学校	R5. 12. 5（火）	株式会社JTB 前島 瑞佳 様

Ⅷ 自己点検評価資料

No. 03		
主 な 取 組	1 7 1 教職員研修の充実	掲載ページ
担当課（館）	学校支援課	34

■初任者育成状況授業見学の5段階評価の平均点比較

年度	1 学期（A）	3 学期（B）	比較（B-A）※2
令和3年度 ※1	—	—	—
令和4年度	3.26	3.32	+0.06
令和5年度	3.24	3.39	+0.15

※1 平均点比較は令和4年度から実施

※2 比較数値は、自己点検評価シート上は小数点第2位を四捨五入

No. 04		
主 な 取 組	1 7 2 教職員による不祥事の根絶に向けた取組の推進	掲載ページ
担当課（館）	学務課	35

■教職員事故発生件数

（単位：件）

項目	R3	R4	R5
体罰	0	0	0
酒酔い運転及び酒気帯び運転での交通事故	0	0	0
わいせつ行為等（セクハラを含む）	0	0	0
その他・非違行為等	0	2	0

Ⅷ 自己点検評価資料

No. 05		
主 な 取 組	2 1 3 読書活動を通じた学習の支援	掲載ページ
担当課（館）	生涯学習・スポーツ推進課	38

■図書館施設概要

図書館名	所在地・電話	開館時間	休館日
桶 川 市 立 中 央 図 書 館	桶川市若宮 1 丁目 5 番 2 号 パトリア桶川（おけがわマイン）内 電話 048-786-6353 FAX 048-786-7916	午前 10 時～午後 9 時 （土曜日・日曜日と同じ時間）	年末年始、 特別整理期間
桶 川 市 立 桶 川 図 書 館	桶川市西 1 丁目 5 番 21 号 電話 048-771-0303 FAX 048-771-0316	午前 9 時～午後 5 時 （土曜日・日曜日と同じ時間）	月曜日、 年末年始、 特別整理期間
桶 川 市 立 川 田 谷 図 書 館	桶川市川田谷 4405 番地の 4 川田谷生涯学習センター内 電話 048-786-8846（FAX 兼用）	午前 9 時～午後 5 時 （土曜日・日曜日と同じ時間）	月曜日、 年末年始、 特別整理期間
桶 川 市 立 坂 田 図 書 館	桶川市坂田東 2 丁目 3 番地の 1 フレスポ桶川内 電話 048-783-2150 FAX 048-729-0910	午前 9 時～午後 5 時 （土曜日・日曜日と同じ時間）	年末年始、 特別整理期間

Ⅷ 自己点検評価資料

■図書館新規登録者数

(単位：人)

R3	R4	R5
1,965	2,002	2,163

■貸出利用状況

図書館名	開館日数（日）			利用者数（人）			利用点数（点）		
	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5
中央図書館	354	337	354	99,594	98,023	101,590	306,705	300,732	297,340
桶川図書館	302	293	305	11,867	11,508	11,289	36,685	36,121	34,622
川田谷図書館	302	76	72	4,118	961	910	14,962	3,285	3,065
坂田図書館	354	337	354	25,600	24,472	24,323	97,142	95,455	91,669
合 計	1,312	1,043	1,085	141,179	134,964	138,112	455,494	435,593	426,696

■広域利用状況

市町名	利用者数（人）			利用点数（点）		
	R3	R4	R5	R3	R4	R5
上尾市	22,860	22,578	22,966	76,924	78,228	74,892
北本市	5,373	5,193	5,501	16,308	15,391	16,438
鴻巣市	1,184	907	1,210	2,987	2,020	2,860
久喜市	540	548	491	2,164	1,762	1,324
伊奈町	2,052	2,057	2,353	10,647	11,878	13,783
合 計	32,009	31,283	32,521	109,030	109,279	109,297

■資料数

区 分	R3	R4	R5
一般書	164,844	167,963	170,576
児童書	73,354	74,575	75,614
L D	2,215	2,215	2,215
D V D	300	304	307
C D	4,433	4,431	4,440
紙芝居	1,557	1,583	1,583
雑誌※	139	128	132
新聞※	10	10	10
合 計	246,852	251,209	254,877

※雑誌、新聞はタイトル数

Ⅷ 自己点検評価資料

No. 06		
主 な 取 組	2 2 1 いじめ防止対策の推進	掲載ページ
担当課（館）	学校支援課	39

■いじめ認知件数 （単位：件）

区 分	R3	R4	R5
小 学 校	213	623	852
中 学 校	51	43	74

No. 07		
主 な 取 組	2 2 2 不登校対策の推進	掲載ページ
担当課（館）	学校支援課	40

■不登校児童生徒数 （単位：人）

区 分	R3		R4		R5	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
小 学 校	32	0.9%	61	1.7%	89	2.5%
中 学 校	64	3.6%	74	4.2%	87	5.1%
合 計	96	1.8%	135	2.5%	176	3.4%

No. 08		
主 な 取 組	2 2 3 教育相談の推進	掲載ページ
担当課（館）	学校支援課	41

■相談件数 ※延べ件数 （単位：件）

	さわやか・スマイル相談員			スクールカウンセラー			教育センター相談員等		
	R3	R4	R5	R3	R4	R5	R3	R4	R5
小学生	398	165	208	50	76	167	43	2	104
中学生	1,924	1,800	1,955	154	180	264	88	16	139
保護者 職員等	1,868	2,676	2,946	662	901	929	558	633	866
合 計	4,190	4,641	5,109	866	1,157	1,360	689	651	1,109

Ⅷ 自己点検評価資料

No. 09		
主 な 取 組	3 1 2 スポーツに関する連携協定事業の充実	掲載ページ
担当課（館）	生涯学習・スポーツ推進課	45

■埼玉上尾メディックス連携事業

開催日	事業名	対象	参加者数（人）
R5. 8. 19（土）	エキシビジョンマッチ ※1	市民	191
R5. 8. 19（土）	バレーボール教室	市民	49

■日本体育大学連携事業

開催日	事業名	対象	参加者数（人）
R5. 6. 10（土）	スポーツクリニックセミナー	小学生	35
R5. 8. 19（土）	エキシビジョンマッチ ※2	市民	191
R5. 8. 22（火）	夏休みスポーツ体験会 ～ダンスに挑戦！～	小学生 未就学児	14
R5. 10. 23（月）	いきいきウォーキング	市民	52
R5. 11. 25（土）	スポーツ・健康に関する研修会	スポーツ少年団母集団	27
R6. 2. 11（日）	オケちゃん駅伝	小学生	180
R6. 2. 26（月）	スポーツ指導者研修会	部活動外部指導者 スポーツ推進委員	22

※1・2については同事業のため、埼玉上尾メディックス連携事業及び日本体育大学連携事業に掲載

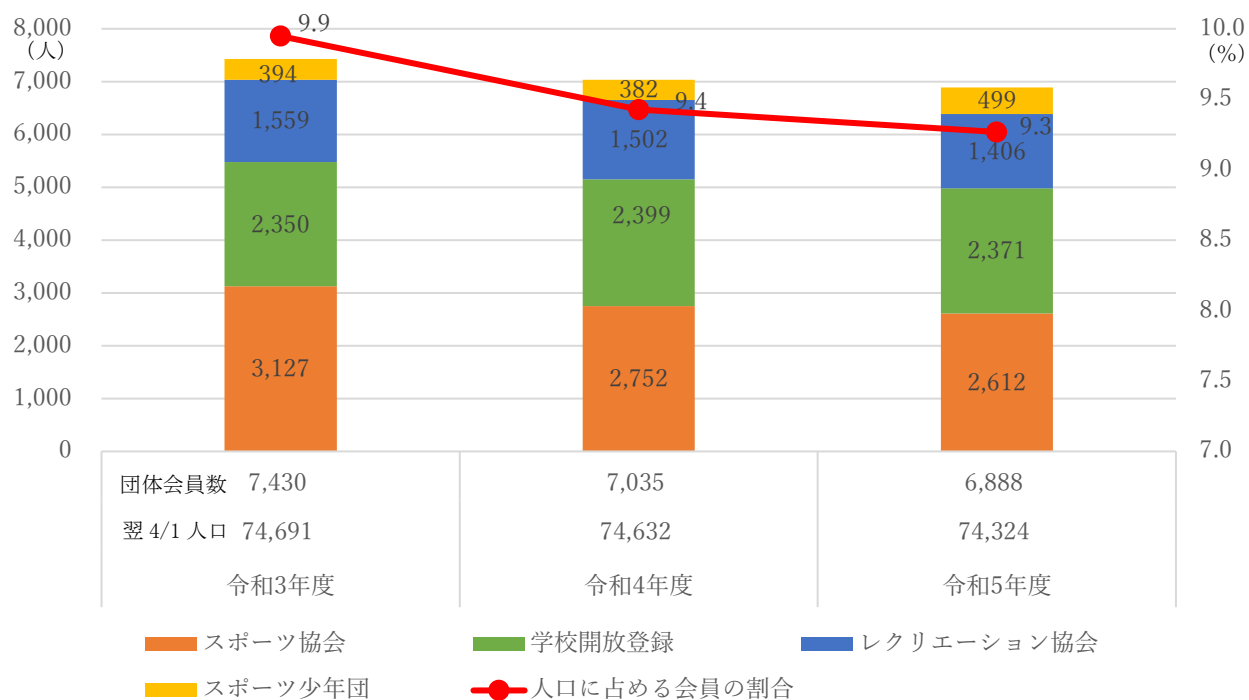
■埼玉西武ライオンズ連携事業

開催日	事業名	対象	参加者数（人）
R5. 6. 13（火）	小学校体育授業支援	小学校	47
R5. 5. 18（木） R5. 12. 13（水） R6. 2. 6（火）	保育施設訪問	幼稚園	322

Ⅷ 自己点検評価資料

No. 10		
主 な 取 組	3 1 3 スポーツ・レクリエーション団体等との連携	掲載ページ
担当課（館）	生涯学習・スポーツ推進課	46

■スポーツ・レクリエーション団体会員数



No. 11		
主 な 取 組	3 2 2 学校給食の充実	掲載ページ
担当課（館）	教育総務課	48

■年間あたりの牛乳残量推移

年度	残量 (kg)	1 日あたり (kg)
令和 3 年度	9,200	48.7
令和 4 年度	9,960	52.7
令和 5 年度	13,170	69.3

Ⅷ 自己点検評価資料

No. 12		
主 な 取 組	4 3 3 地域コミュニティ・社会教育団体への支援	掲載ページ
担当課（館）	公民館	55

■公民館施設概要

公民館名	桶 川 公 民 館	桶 川 東 公 民 館
所 在 地	桶川市西一丁目5番21号	桶川市末広二丁目8番29号
電 話	048-772-3888	048-728-7622
ファックス	048-776-7999	048-728-7680
敷地面積	1,460.24 m ²	4,694.61 m ²
延床面積 (共有部分 含)	690.55 m ² (748.61 m ²)	563.33 m ² (1,024.50 m ²)
室名及び 収容人員	展示ホール 大集会室 100人程度 研修室(1) 30人程度 研修室(2) 30人程度 研修室(3) 18人程度 調理室 20人程度 和 室 35人程度	展示ホール 大会議室 160人程度 会議室 60人程度 研修室 60人程度 調理実習室 25人程度 和 室 40人程度

公民館名	加 納 公 民 館	川 田 谷 公 民 館
所 在 地	桶川市坂田982番地の5	桶川市川田谷4405番地の4
電 話	048-728-1040	048-786-4033
ファックス	048-728-2311	048-786-4031
敷地面積	1,205.00 m ²	5,471.17 m ²
延床面積	553.96 m ²	915.37 m ²
室名及び 収容人員	大会議室 100人程度 小会議室 30人程度 研修室 25人程度 サークル活動室 25人程度 和室 70人程度	スポーツホール 260人程度 視聴覚ホール 100人程度 研修室 30人程度 アートスペース 20人程度 調理室 30人程度 和 室 40人程度 陶芸窯室 —

Ⅷ 自己点検評価資料

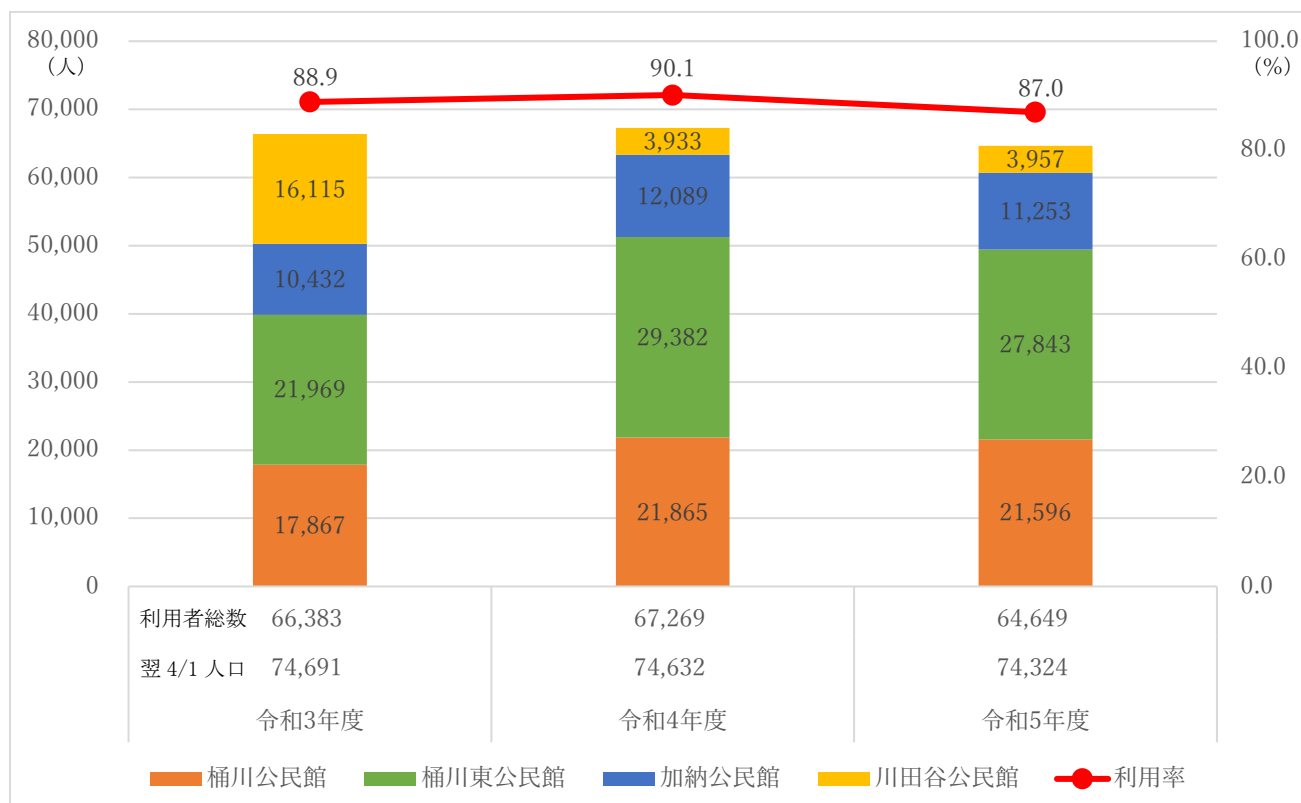
■公民館利用状況

(単位：人)

公 民 館 名	区 分	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
桶 川 公 民 館	主催事業	60	0	40	162	273	148	131	251	80	168	192	298	1,803
	サークル	635	445	543	487	390	539	700	485	527	483	477	549	6,260
	そ の 他	1,431	927	1,333	1,289	803	856	1,282	1,109	997	1,125	1,100	1,281	13,533
	計	2,126	1,372	1,916	1,938	1,466	1,543	2,113	1,845	1,604	1,776	1,769	2,128	21,596
桶川東公民館	主催事業	0	0	0	180	316	170	225	211	193	0	0	44	1,339
	サークル	801	657	978	1,472	574	1,037	572	723	786	716	1,125	716	10,157
	そ の 他	1,808	1,222	1,085	1,164	1,247	1,303	1,844	2,014	1,129	937	1,282	1,312	16,347
	計	2,609	1,879	2,063	2,816	2,137	2,510	2,641	2,948	2,108	1,653	2,407	2,072	27,843
加 納 公 民 館	主催事業	0	25	5	128	190	0	17	6	31	0	19	0	421
	サークル	513	460	439	489	231	456	452	394	498	379	392	376	5,079
	そ の 他	397	294	437	714	452	576	657	594	293	469	395	475	5,753
	計	910	779	881	1,331	873	1,032	1,126	994	822	848	806	851	11,253
川田谷公民館 ※	主催事業	0	0	0	0	0	0	0	0	0	464	113	97	674
	サークル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	80	144	62	286
	そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	673	844	1,480	2,997
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,217	1,101	1,639	3,957
合 計		5,645	4,030	4,860	6,085	4,476	5,085	5,880	5,787	4,534	5,494	6,083	6,690	64,649

※川田谷生涯学習センター大規模改修工事に伴い、令和6年1月より開館

■年度別利用状況



Ⅷ 自己点検評価資料

No. 13		
主 な 取 組	5 2 1 学習機会の創出	掲載ページ
担当課（館）	生涯学習・スポーツ推進課	58

■桶川市民大学 令和5年度 実施内容

テーマ：「生き甲斐をもって生きる」

回	開催日	内容	会 場 参加者数
1	8 月 31 日（木）	開講式 講義1「桶川市長による講義」 講師：桶川市長 小野 克典	桶川東公民館 43 人
2	9 月 14 日（木）	講義2「誰でも楽しめるタウン・ウォッチング」 講師：立正大学 教授 大島 秀樹	立正大学 35 人
3	9 月 28 日（木）	講義3「- 悪質商法には、だまされない！ -」 講師：桶川市自治振興課	桶川東公民館 42 人
4	10 月 25 日（木）	講義4「熊谷はなぜ暑いのか？」 講師：熊谷気象台 調査官 山城 幸浩	桶川東公民館 40 人
5	11 月 2 日（木）	講義5「- 生活習慣病の予防 -」 講師：女子栄養大学 講師 宮崎 美紀	桶川東公民館 38 人
6	11 月 16 日（木）	講義6「桶川市内歴史散歩（桶川地区）」 講師：桶川市ガイドボランティアの皆さん	中山道パーキング 24 人
7	12 月 7 日（木）	講義7「南極の自然と地球観測隊」 講師：立正大学 教授 川野 良信	桶川東公民館 39 人
8	12 月 22 日（木）	講義8「お屠蘇の新しい使い方を考える（講義・実習）」 講師：日本薬科大学 講師 糸数 七重	日本薬科大学 31 人
9	1 月 18 日（木）	講義9「桶川の歴史」 講師：桶川市歴史民俗資料館 閉講式	桶川東公民館 42 人

Ⅶ 自己点検評価資料

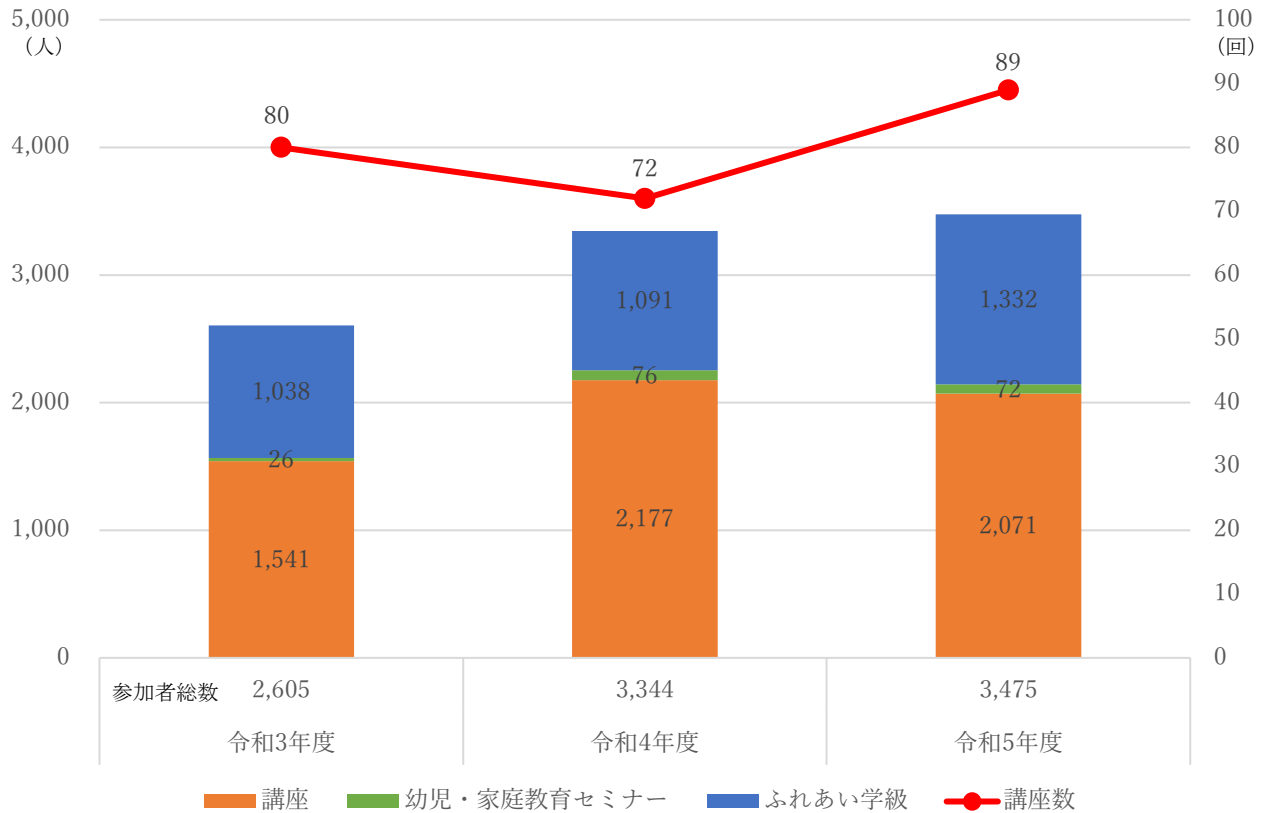
■職員出前講座 令和５年度 実施内容

No	担当課	内容	実施月	利用団体	参加人数
1	環境センター	みんなでつくる循環型社会	10 月	放課後 子供教室	19 人
2	環境対策推進課	ごみを減らすためにできること	2 月	区長会	150 人
3	環境対策推進課	おけがわの緑と自然再生	6 月	中学校	154 人
4	産業観光課	べに花ってな・あ・に？	5 月	中学校	154 人
5	高齢介護課	聞いてみたい介護保険	9 月	自治会	20 人
6	高齢介護課	聞いてみたい介護保険	11 月	市民団体	12 人
7	高齢介護課	認知症サポーター養成講座	1 月	P T A	15 人
8	健康増進課	バランスのとれた食事のとり方	9 月	放課後 子供教室	23 人
9	健康増進課	バランスのとれた食事のとり方	3 月	団体	26 人
10	健康増進課	オケちゃん体操	10 月	放課後 子供教室	23 人
11	健康増進課	オケちゃん体操	1 月	放課後 子供教室	21 人
12	健康増進課	オケちゃん体操	2 月	放課後 子供教室	10 人
13	歴史民俗資料館	桶川の歴史と文化について	4 月	歴史団体	40 人
14	歴史民俗資料館	桶川の歴史と文化について	5 月	中学校	154 人
15	秘書広報課	あなたにもできる広報紙づくり	5 月	P T A 連合会	30 人
16	安心安全課	桶川市の防災について	9 月	市民の会	10 人
17	安心安全課 障害福祉課	桶川市の防災対策	10 月	手話 サークル	20 人

Ⅷ 自己点検評価資料

No. 14		
主 な 取 組	5 2 3 ライフステージに応じた講座の開催	掲載ページ
担当課（館）	公民館	60

■講座数と参加者の推移



Ⅷ 自己点検評価資料

■講座・教室等テーマ別分類表

	桶川公民館	桶川東公民館	加納公民館	川田谷公民館
くらしと生活	【クリスマス】 ・クリスマス・リースを手作りする会 ・アイシング・クッキーづくり体験 お花のおはぎ作り講座 ・アレンジしめ飾りづくり ・プロが教えるコーヒー講座 ・折り紙講座～KawasakiRose に挑戦！～ ・春の行楽弁当づくり講座	【クリスマス】 ・クリスマスに編みパンで食卓を華やかに！ ・こぎん刺し講座	・お正月お花飾りつけ講座	・第1回かわたやきっちゃん～ハッピーバレンタイン！ チョコロールケーキつくりましょう ・第2回かわたやきっちゃん～お惣菜3品！ お持ち帰りの会 ・“第3回かわたやきっちゃん～はじめての手ごねパンづくり～”
趣味・教養	・4色で桜の絵を描こう	【桶川 IT ネット共催事業】 ・「パソコン初心者講座」 ・「はじめてのインターネット講座」 ・「ワード基礎講座」 ・「エクセル基礎講座」 ・「エクセル応用講座」 ・「デジタル写真活用講座」 ・「年賀状作成講座」 ・パソコン講習「ワード応用講座」 ・「何ができるの？AI講座」 ” ・桶川東切り絵講座 ・みんなで奏でる「カリンバ」講座 ・プリザーブドフラワーでつくる仏花講座 ・はじめてのペーパークイリング講座	・講談で楽しむ戦国時代・敗軍の将の美学 ・一貫張り講座	・第1回かわたやわーくしょっぷ～愛犬・愛猫へのプレゼント！首輪づくり～ ・第2回かわたやわーくしょっぷ～七宝焼きでブローチ作り～
芸術・文化	【桶川書道人連盟共催事業】 ・「プロから学ぶ かんたん裏打体験」 【戯曲創作会共催事業】 ・朗読劇「星の王子さま」			・川田谷公民館リニューアル記念「ジャズ・ライブ」
スポーツ・レクリエーション			・七福神巡り in 浅草	
児童生徒	【夏休み子どもワールド】 ・新聞エコバック作り ・タペストリー（特大）を作ろう ・グラスサンドアート ・キャンドルでつくるメモスタンド ・万華鏡をつくろう ・アイシングでこマフィン ・食育ワークショップ（梨ジャムづくり） ・簡単カワイイ！編み上げポーチ 【特別支援学級・通級指導教室および大人数での学習が苦手な子向け講座】 ・桶西水族館を探検しよう！ 第1回 ・桶西水族館を探検しよう！ 第2回 【中学生企画】 ・初心者向け「音ゲー」対策講座 ・スマホで手軽に VR 体験	【夏休み子どもワールド】 ・フラワーアレンジメント ・キッズヨガ ・ウィナーパンをつくろう（1・2年） ・ウィナーパンをつくろう（3～6年） ・かつお節けずり体験 ・宿題アドバイス（読書感想文） ・押し花アート ・宝石せっけんづくり ・プログラミング講座（小学1・2年向け） ・プログラミング講座（小学3・4年向け） ・プログラミング講座（小学5・6年向け） 【特別支援学級・通級指導教室および大人数での学習が苦手な子向け講座】 ・ウィナーパンをつくろう ・ハロウィン親子お菓子作り ・親子で年越しそば打ち体験 【桶川市施設管理公社共催】 ・冬休み子ども料理教室	【夏休み子どもワールド】 ・おりがみあーと ・クラフトバンドでつくるペン立て ・楽しい木工講座 ・多肉植物の寄せ植え ・手織りのタペストリー ・桶西水族館見学と化石のレプリカづくり ・Nゲージで学ぶ！ 鉄道教室 ・空手講座 ・サイエンス講座 ・アロマのじかん ・お箏チャレンジ ・クリスマスペーパー作り 【中学生企画】 ・ヘルシードーナッツ作り	
現代的課題	【今日から始める！「人生100年時代」のための講座】 ・「睡眠」と「健康」の知恵袋講座 【桶川西高等学校共同事業】 ・「蜜症の梨」を使ったレシピの開発をしよう！ 【戯曲創作会共催事業】 特別支援学級・通級指導教室専用 ・朗読劇「星の王子さま」 社会教育関係委員会合同研修会 ・「障害を持つ人の学びと社会教育」 ・どうする親の介護 ・美味しい珈琲と新聞で過ごす	【今日から始める！「人生100年時代」のための講座】 ・初心者向け資産形成講座 ・わたしと家族の「そうぞく」講座 【女子栄養大学連携事業】 ・“1日にどれくらい食べればいいのか？” ～シニア世代の1日の食事を学ぶ～ 【東洋大学講師派遣事業共催】 ・「ヨガで学ぶメンタルヘルス」		
その他	・サークル発表会 ・幼児・家庭教育セミナー ・ふれあい学級	・サークル発表会	・サークル発表会	

Ⅷ 自己点検評価資料

No. 15		
主 な 取 組	5 3 2 スポーツ施設の充実	掲載ページ
担当課（館）	生涯学習・スポーツ推進課	62

■スポーツ・レクリエーション施設利用状況

施設名		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度		備 考
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	
1	桶川サン・アリーナ	21,327	268,613	22,261	305,107	22,895	328,119	所在地 桶川市下日出谷西 2-4-1 電 話（公財）桶川市施設管理公社 048-787-5111 F A X（公財）桶川市施設管理公社 048-787-4801 利用時間 年間 午前 9 時から午後 10 時
	メイン・アリーナ	7,400	81,629	6,980	91,349	6,984	90,345	
	サブ・アリーナ	1,931	23,209	1,989	26,182	1,896	28,392	
	卓球場	6,316	34,417	7,183	35,443	7,603	35,615	
	柔道場	1,326	17,598	1,498	19,734	1,567	22,516	
	剣道場	1,329	28,210	1,493	31,182	1,487	37,136	
	弓道場	1,558	7,845	1,516	8,567	1,688	9,508	
	ジョギングコース	161	656	148	252	262	391	
	会議室	739	8,650	820	11,356	752	12,600	
	研修室	567	4,305	634	5,813	656	5,572	
	トレーニング室	-	62,094	-	75,229	-	86,044	
2	新小針領家グラウンド	132	7,289	107	5,867	107	6,111	所在地 桶川市大字小針領家 939 番地 電 話・F A X （公財）桶川市施設管理公社内 利用時間 5 月から 8 月 午前 7 時から午後 7 時 9 月から 4 月 午前 8 時から午後 5 時
3	舎人スポーツ・パーク	1,843	11,168	1,983	10,195	1,653	9,730	所在地 桶川市赤堀 1 丁目 1 番地 電 話 048-728-7510 利用時間 5 月から 8 月 午前 7 時から午後 7 時 9 月から 4 月 午前 8 時から午後 5 時
4	総合運動場	255	16,652	267	16,522	264	16,594	所在地 桶川市大字川田谷 7528 番地の 7 電 話・F A X （公財）桶川市施設管理公社内 利用時間 5 月から 8 月 午前 7 時から午後 7 時 9 月から 4 月 午前 8 時から午後 5 時
合 計		23,567	303,722	24,618	337,691	24,923	360,554	

No. 16		
主 な 取 組	6 1 1 民俗芸能伝承状況調査の実施	掲載ページ
担当課（館）	文化財課	63

■ 民俗芸能伝承状況調査

No	調査日	芸能名称	団体名称	場所
1	R5. 7. 15-16	桶川市子ども囃子	桶川市栄町囃子連外	中山道
2	R5. 8. 27	諏訪の万作	諏訪万作保存会	諏訪神社
3	R5. 10. 1	松原のささら獅子舞	松原ささら獅子舞保存会	松原八幡神社
4	R5. 10. 1	松原の万作	松原万作保存会	松原八幡神社
5	R5. 10. 8	前領家のささら獅子舞	前領家ささら獅子舞保存会	王子稻荷神社
6	R5. 10. 8	三田原のささら獅子舞	三田原ささら獅子舞保存会	三田原氷川神社
7	R5. 10. 8	三田原の万作	三田原万作連	三田原氷川神社
8	R6. 2. 3	本学院の節分行事		本学院



市指定民俗（無形）文化財
前領家のささら獅子舞

令和5年10月8日



本学院の節分行事

令和6年2月3日

Ⅷ 自己点検評価資料

■桶川市民俗芸能保存事業交付金

No	区分	芸能名称	団体名称	交付金額
1	市指定	岡村の万作	岡村万作保存会	30,000 円
2	市指定	倉田の囃子	倉田囃子保存会	30,000 円
3	市指定	小針領家ささら獅子舞	小針領家獅子舞保存会	30,000 円
4	市指定	下日出谷の囃子	下日出谷囃子連	30,000 円
5	市指定	下日出谷の餅つき踊り	下日出谷餅搗踊り保存会	30,000 円
6	市指定	下日出谷の万作	下日出谷万作踊り保存会	30,000 円
7	市指定	諏訪の万作	諏訪万作保存会	30,000 円
8	市指定	前領家のささら獅子舞	前領家ささら獅子舞保存会	30,000 円
9	市指定	松原のささら獅子舞	松原ささら獅子舞保存会	30,000 円
10	県指定	松原の真言	松原真言保存会	30,000 円
11	市指定	松原の万作	松原万作保存会	30,000 円
12	市指定	三田原の万作	三田原万作連	30,000 円
13	市指定	三田原のささら獅子舞	三田原ささら獅子舞保存会	30,000 円
14		夫婦獅子舞・囃子	武州桶川宿本街保存会	30,000 円
15		薬師堂の囃子	薬師堂囃子連	30,000 円
16		桶川市子どもばやし	桶川市本街子ども囃子保存会	30,000 円
17		上日出谷の囃子	上日出谷囃子連	30,000 円
18		栄町の囃子	栄町囃子連	30,000 円
19		八雲会の囃子	八雲囃子連	30,000 円
20		八雲会子ども囃子	八雲会子ども囃子連	30,000 円
合 計				600,000 円

No. 17		
主 な 取 組	6 1 2 文化財の調査と指定	掲載ページ
担当課（館）	文化財課	64

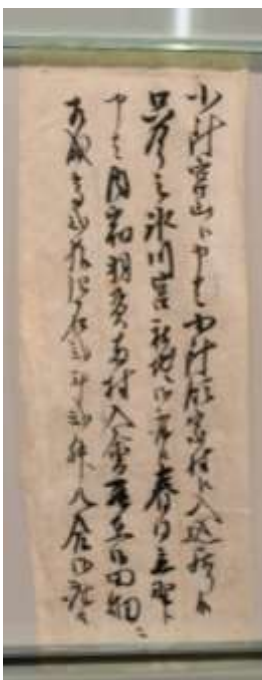
■文化財調査

No	調査日	区分	種別	種類	文化財名称	場所
1	R5. 9. 27	国指定	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	泉福寺
2	R5. 10. 1	県指定	有形	古文書	明星院文書（写）	明星院



国指定有形（彫刻）文化財
木造阿弥陀如来坐像

胎内に記された墨書銘から仏像の発願者が複数人の女性であることがわかった。



県指定有形（古文書）文化財
明星院文書

文書資料の写しに貼り付けされていた紙片から、これまで不明とされていた「伊奈忠次手形」に記された約束の内容が判明した。

小針宮山ト申者小針領家村江入込居り候
只今之氷川宮社地ニ御座候春日立野ト
申者内宿羽貫両村入会罷在候田畑ニ
相成高式拾四石式斗式升八合御座候

Ⅷ 自己点検評価資料

■文化財保存事業費補助金

No	区分	種別	種類	文化財名称	内容	補助金額
1	国登録	有形	建造物	島村家住宅土蔵	電気設備改修	165,000 円
2	県指定	民俗	無形	松原の真言	装束等の購入	97,000 円
3	市指定	有形	建造物	矢部家住宅	トイレ屋根修繕	124,300 円
合 計						386,300 円



県指定民俗（無形）文化財
松原の真言

演技で着用する装束等の購入費の一部を補助金として交付した。

Ⅷ 自己点検評価資料

■指定文化財保存管理交付金

件数	区分	種別	種類	名称	交付金額
1	国指定 1 件	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像（泉福寺）	10,000 円
2	県指定 5 件	有形	建造物	桶川宿本陣遺構	7,500 円
3		記念物	史跡	熊野神社古墳	7,500 円
4		記念物	天然記念物	倉田の大カヤ（明星院）	7,500 円
5		記念物	天然記念物	光照寺コウヤマキ	7,500 円
6		旧跡	旧跡	梵語学者盛典の墓（知足院）	7,500 円
7	市指定 22 件	有形	建造物	諏訪神社本殿	5,000 円
8		有形	建造物	泉福寺山門並びに石造仁王像一棟二躯	5,000 円
9		有形	建造物	矢部家住宅	5,000 円
10		有形	工芸品	泉福寺の銅製釣灯籠	5,000 円
11		有形	古文書	旧小針領家村松川家文書	5,000 円
12		有形	古文書	旧五町台村渋谷家文書	5,000 円
13		有形	古文書	旧倉田村荒井家文書	5,000 円
14		有形	古文書	旧倉田村明星院領星野家文書	5,000 円
15		有形	歴史資料	天満神社の木製の額（氷川天満神社）	5,000 円
16		有形	歴史資料	紅花商人寄進の石燈籠二基	5,000 円
17		有形	歴史資料	川辺の板石塔婆	5,000 円
18		民俗	有形民俗	稲荷神社の力石	5,000 円
19		民俗	有形民俗	天神道の道しるべ	5,000 円
20		民俗	有形民俗	樋詰の道しるべ	5,000 円
21		民俗	有形民俗	各号塔兼ねた道しるべ	5,000 円
22		民俗	有形民俗	小針領家のささら獅子舞用具一式	5,000 円
23		記念物	史跡	木戸跡（下）	5,000 円
24		記念物	史跡	加納城址	5,000 円
25		記念物	天然記念物	シイガシ	5,000 円
26		記念物	天然記念物	多気比売神社の大シイ	5,000 円
27		記念物	天然記念物	ムクロジ	5,000 円
28		記念物	天然記念物	普門寺のしだれ桜	5,000 円
合 計					157,500 円

■文化財説明板改修

No	区分	種別	種類	文化財名称	場所
1	市指定	有形	建造物	諏訪神社本殿	諏訪神社
2	市指定	民俗	無形	諏訪の万作	諏訪神社
3	未指定	有形	建造物	明星院	明星院



市指定有形（建造物）文化財
諏訪神社本殿

経年劣化等により破損や判読が困難になった説明板の改修を行った。

Ⅸ 外部評価

令和6年度（令和5年度事業）桶川市教育委員会点検評価報告書に対する意見

若原 幸範

本年度の点検評価は『桶川市教育振興基本計画』が策定されて初めてのものとなる。多くの自治体で既に同計画が策定されていることに鑑みると後れを取った感はあるが、ともあれ計画策定が実現したことを歓迎したい。折しも時代は新型コロナウイルス感染症パンデミックを経て、世界史的な転換局面にある。2022年に開催された第7回国際成人教育会議の成果として示された「マラケシュ行動枠組み」では、学習・教育のもつ「変革力」への期待を強調している。学習・教育を通じた個人及び集団の成長が持続可能な社会の実現のためのカギなのであり、その最も重要な実践の場が地域である。その意味で、地域における教育計画とは、持続可能な未来の地域社会及び世界創造への道程を示すビジョンでもある。もちろん、その道程は自明でなく、その実行プロセスにおける検証と見直しを続ける不斷の努力が求められる。教育振興基本計画下における点検評価の営みは、このような意義を持つものと考ええる。

以下、6つの基本方針ごとに特筆すべき点について、意見を述べさせていただきます。

1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実

全体として概ね適切に取り組まれたと評価する。【113】課題として示されている日本語指導が児童生徒への支援は、今後ニーズが急速に高まると考えられる。早期に支援体制が整備されることを期待する。

【122】課題となっている部活動については、近隣の他自治体においても地域移行等の試行錯誤が進められており、適宜情報交換・連携しながら取り組まれることを期待する。【131】優れた成果を示していると評価できるが、次年度以降はどのように授業改善が図られたのかを示す根拠資料を添付するよう求めたい。【142】環境教育においては学習者の暮らしに根ざしたグローバルな理解が重要となるため、地域のなかで、地域と連携しながら取り組まれることを期待したい。

2 豊かな心の育成と人権意識の高揚

全体として概ね適切に取り組まれたと評価する。【211】評価指標が適切か疑問である。自己肯定感の向上は道德教育の目標の一つとは言えるが、その教育目的はより包括的なものである。全国学力・学習状況調査では「道德の授業」を直接扱う調査項目が設定されており、再検討を期待したい。【212】課題の記述が曖昧である。具体的にどのような課題が残り、どのような点で「充実が必要」なのかを明らかにする必要がある。【222】評価指標にある不登校児童の割合を抑えることは重要だが、必ずしも通学継続や学校復帰が最適解ではないケースもある。数値を自己目的化することなく、個々の児童・生徒に応じた対応を期待したい。【231・232】次年度以降はエビデンスとして、研修のテーマ一覧やアンケート結果の抜粋等の資料添付を求める。

3 健やかな体の育成

全体として概ね適切に取り組まれたと評価する。【313】課題に示されたスポーツ・レクリエーション団体の会員数減少については、次年度においてその要因を検証し適切な対応策が採られることを期待したい。【321】評価指標にある朝食摂取率をはじめ、食育においては課題に示されている通り家庭との連携が重要となる。社会教育や場合によっては福祉分野とも連携し、保護者の学習・生活面での支援がなされることを期待したい。【321・322】食育においては「321」の課題に示されている通り地域との連携が重要となる。特に食材提供に留まらない地元生産者との連携を期待したい。

4 家庭・地域の教育力の向上

全体として概ね適切に取り組まれたと評価する。【411】次年度以降はエビデンスとして、セミナーのテーマ一覧やアンケート結果の抜粋等の資料添付を求める。【421】課題に示されている通り、事業の多様化が必要である。環境教育やキャリア教育、食育等の他の目標との関連も意識しながら検討されることを期待したい。【432】参加児童数が増えており、高まるニーズに応えていることを高く評価する。事業の質の向上の観点から、次年度以降は取り組み内容が検証可能な根拠資料の添付を求める。【433】現代的な課題に積極的に取り組んだことを高く評価する。ただし、成果指標の公民館利用率が、人口に対する総利用者数（延べ人数）の割合として算出されている点は、実態や課題を把握する手法としては不十分であるため、再検討を求める。

5 生涯にわたる学びとスポーツの支援

全体として概ね適切に取り組まれたと評価する。【511】自己点検評価が評価指標の人財バンクにとらわれており、学習情報提供に関する省察が弱い。学習情報の発信がどれくらい市民の学習行動（講座への参加等）に結びついているか等の検証をふまえ、改善策の検討が必要である。【512】課題の記述が曖昧である。具体的にどのような課題が残ったのかを客観的に記述する必要がある。【532】成果指標が「新たなスポーツ施設の整備数」のみとなっており、既存施設の維持管理をめぐる点検評価が不十分である。施設の安全性・快適性等を評価する指標の設定を求める。

6 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

全体として概ね適切に取り組まれたと評価する。【611・612】取り組み内容と共に、自己点検も精緻に行われていることを高く評価したい。「611」の課題に対する次年度以降の方針に示されている新たな公演機会創出と後継者育成・継承支援については、地域社会教育の重要課題として着実に取り組まれることを期待する。【621・622】評価指標が講座の実施回数となっているが、より重要なのは講座のもつ教育効果である。十分な講座数となることを前提に、その質を検証可能な指標の設定を期待したい。

※グローバル…世界規模の視野で物事を捉えながら地域に寄り添った考え方・その取組や行動

令和6年度（令和5年度事業）桶川市教育委員会点検評価報告書に対する意見

小野田 正範

先行き不透明で予測困難なこれからの時代を生き抜いていく子どもたちに、豊かな未来を切り拓いていく力を身につけるべく、様々な課題に対応しながら真摯に効果的な教育施策を推進しておられる桶川市教育委員会の取組にまずもって敬意を表します。令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたのと時を同じくして感染者数も激減し、令和5年度の教育活動はほぼコロナ禍前の様相に戻ったものと推察しますが、この期を契機として見直しが行われ、改善策が施されたものも多くあったと推察します。また、昨今の気候変動への対策も欠かせない課題でありました。このような中、施策全般に対する点検評価を適切に実施され、体系的にまとめた本報告書から桶川市教育委員会の取組の成果を実感いたしました。これまでの評価報告書の有用性もさることながら、新たな様式には事業ごとの指標や5年後の目標が明確に示され、実績に応じた自己点検評価ができ、それが一目で分かるように工夫されています。また、今後の経年変化も捉えやすく、様々な改良が加えられていました。自己点検評価のための資料や用語集も充実していました。

以下、6つの基本方針ごとに特筆すべき点について、意見を述べさせていただきます。

1 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実

学校における教育活動の前提となる安心・安全そして快適な環境を整備することについて、大規模改修、空調設備整備、熱中症対策、防災機能強化、ICT環境の整備、登下校の安全確保など、昨今の課題への対応も含め適時・適切に行われています。今後の各施設の老朽化への対応を計画的に進めてください。ICTを授業で活用している教職員の割合が上昇して95.4%であったことは評価できます。教職員の活用スキルの向上や児童生徒の情報モラル向上を含めたスキルアップを図ってほしいと思います。授業の充実には教師の力量アップが不可欠です。初任者をはじめ全教職員の資質能力の向上に向け、様々な研修の充実を図っていることが分かります。昨今、教師を志望する若者の減少が顕著です。教育内容の充実とともに働きやすい職場環境づくりを実現し教職の魅力を発信されるよう期待します。令和4年度に教職員事故が2件発生していますが、令和5年度は0件でした。不祥事の根絶に向けた取組の継続をお願いします。

2 豊かな心の育成と人権意識の高揚

豊かな心を育み、人権意識の高揚を図る取組として道徳教育、人権教育、読書活動の充実に学校教育をはじめ市全体で取り組んでいることが分かります。引き続き、計画的な施策の実施をお願いします。不登校児童生徒の割合が増加していますが、それぞれの事由や背景があると思われ、一人一人に応じたきめ細やかな対応が求められます。相談員やスクールカウンセラーへの相談件数が増えていることはニーズの表れであり、未然防止につながる重要な取組です。相談員の資質の向上を図りながら、よりいっそう相談活動が充実することを期待します。

3 健やかな体の育成

「朝食を毎日食べている」と回答した児童生徒の割合が、公表されているいくつかの調査結果よりも小中ともに高い数値を示しています。家庭での習慣ではありますが、市として取り組んでいる食育の成果であると思います。朝食を摂ることで生活リズムを整える、エネルギーを補給する、脳の活性化と集中力アップなど大きな効果が得られます。引き続き、食の大切さを理解し適切な食習慣を身に付けるための食育の推進・充実を期待します。

4 家庭・地域の教育力の向上

幼児・家庭教育セミナーと親の学習講座の満足度がともに95%を超えていることは高く評価できます。受け入れ人数の引き上げや内容の更なる充実を図っていただきたいと思います。登下校時の安全確保の支援や学習ボランティアなどに学校応援団の方々が機能的に活動されている様子がうかがえます。コーディネーター役の教員の負担が増えてしまっただけでは本末転倒ですが、人材不足が叫ばれている中で外部人材の有効活用を模索してください。試行的に実施した特別支援学校等に通う児童向けの講座は、昨今のニーズに応えるよい取組だと感じます。地域全体で効果的な事業が実施できるよう期待します。

5 生涯にわたる学びとスポーツの支援

おけがわ市民芸術文化祭への参加団体が38団体に増えたことは、市民の関心の高さの表れであり広報活動の成果だと思います。活動して得た成果を発信したり評価を得たりすることは、今後への意欲を高め生きがいを感じることにつながるはずです。桶川市民大学や職員出前講座も積極的に実施され、生涯にわたる学びの充実に取り組む姿勢を高く評価します。公民館で実施した様々な講座への参加者数にも市民の関心の高さと実施側の意図がマッチして有意義な活動が展開されていることが分かります。持続可能な社会づくりの担い手を育てる大切な取組です。今後の各講座のバージョンアップや参加者数増を大いに期待します。

6 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進

持続可能な社会の担い手づくりの一環として、地元のことをよく知り地域に貢献できる児童生徒の育成が不可欠です。そのための教師の役割は大きく、学校での地域学習の指導に役立つ教職員向け講座は有意義な取組であると思います。令和5年度は休館中だった歴史民俗資料館を大いに活用して、6年度以降の内容の充実を期待します。博学連携事業として学芸員等の指導による講座に参加する機会は、児童生徒にとって大変貴重な学びであり、体験を通じて得られる深い学びにつながるものです。今後、市内全体への拡充並びに内容の充実を期待します。

X 用語集

X 用語集

行	用語	解説	掲 載 ページ
あ	インクルーシブ	教育の現場においては、「すべての子どもを包括する教育」のことで、障害の有無にかかわらず子どもが共に学ぶ仕組みのこと。	32・55
	英語指導助手	児童生徒の英語のスキルを向上させるための英語授業の補助教職員のこと。	29
	オンデマンド	あらかじめ作成した動画ファイルをアップロードすることで、視聴者がいつでも好きな時に見ることができる配信方式のこと。	33
か	カーボンニュートラル	二酸化炭素など温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、その排出量を「実質ゼロ」に抑えるという概念のこと。	28
	学習指導要領	文部科学省が定める、各学校で教育課程を編成する際の基準のこと。全国のどの地域で教育を受けても一定の水準の教育を受けられるよう、各教科などの目標や大まかな教育内容を定めるもの。	28・65
	各種補助員	教育指導補助員、理科支援員、学校図書館教育補助員、日本語指導員、スマイル相談員、さわやか相談員、学習支援室専任職員、I C T支援員、看護師	22
	学力・学習状況調査	子どもたちの学力・学習状況を把握するための調査のこと。	22・25・ 28・29・ 30・36・ 37・38・ 47
	学校運営協議会	保護者や地域住民が学校運営に参画し、子どもたちの育成の方向性や方法を考え、地域の協力を得ながら教育に反映される仕組みを有した組織のこと。	23
	学校応援団	学校における学習活動、安全確保、環境整備等について、ボランティアとして協力・支援を行う保護者・地域住民による活動組織のこと。	53
	キャリア教育	一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方の実現を促す教育のこと。	30
	キャリアパスポート	自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりするため、児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動を記録・蓄積するもの。	30
	共生社会	障害の有無や年齢・性別の違いなど、様々な違いのある人々が相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら、共に生きていく社会のこと。	32
	協働	異なる立場や特性を持つ人々が、共通の目的や目標に向かって、対等な立場で協力し合いながら取り組むこと。	23・54・ 55
	クラウド	従来は利用者が手元のコンピュータで利用していたデータやソフトウェアをネットワーク経由で、サービスとして利用者に提供する形態のこと。	26
	グローバル	「世界的」、「国際的」という意味を持つ言葉で、地理的、文化的、経済的な国境を越えて、広い範囲で影響を与えたり、活動したりすること。	29
	言語聴覚士	言語、音声、聴覚、コミュニケーションに関連する問題に対処し、支援を提供する専門家のこと。	33
	コミュニティ・スクール	保護者や地域のニーズを反映させるために、地域住民が学校運営に参画できるようにする仕組みや考え方を有する形態の学校のこと。	23・53
さ	持続可能な社会	有限な地球環境の中で、環境負荷を最小にとどめ、資源の循環を図りながら、「環境」、「経済」、「人間社会」のバランスが取れた地球生態系を維持できる社会のこと。	28・60

X 用語集

行	用語	解説	掲載ページ
さ	主体的・対話的で深い学び	「主体的な学び」とは、学ぶことに興味や関心を持ち、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげること。「対話的な学び」とは、協働、対話、考えること等を通じ、自己の考えを広げ深めること。「深い学び」とは、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、問題を見いだして解決策を考えたりすること等に向かうこと。	25・26・34・36
	生涯学習	生涯を通じて健全な食生活を実践するために、正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるとともに、食文化を継承し、自然の恵みなどを理解するもの。	56・58
	情報モラル	個人情報の保護、人権侵害、著作権等に対する対応、危険回避やネットワーク上のルール、マナーなど情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度のこと。	27
	食育	生涯を通じて健全な食生活を実践するために、正しい知識と望ましい食習慣を身に付けるとともに、食文化を継承し、自然の恵みなどを理解するもの。	47
	新体力テスト	文部科学省が、国民の体位の変化、スポーツ医・科学の進歩、高齢化の進行等を踏まえ、昭和39年（1964年）以来行ってきた「体力・運動能力テスト」を平成11年（1999年）に見直して、現状に合ったものとした運動能力に関するテストのこと。	44
	スクールカウンセラー	臨床心理に関する専門知識を活かし、学校において、児童生徒、保護者及び教職員が抱えるさまざまな課題について解決のための助言や指導などを行う者のこと。	41
	スクールソーシャルワーカー	児童生徒が抱えている問題に対して、保護者や教職員、関係機関と連携しながら解決に向けた支援を行う専門職のこと。	41
	スポーツ推進委員	市のスポーツ推進のため、住民に対し、スポーツの事業に係る連絡調整、スポーツの実技指導、その他スポーツ推進のための指導。助言を行う者のこと。	61
	スポーツハラスメント	スポーツの現在において、「暴力」、「暴言」、「ハラスメント」、「差別」など安全・安心にスポーツを楽しむことを害する行為のこと。	61
た	地産地消	地域生産・地域消費の略語。地域で生産された様々な生産物や資源（主に農産物や水産物）をその地域で消費すること。	48
	超スマート社会 (Society5.0)	①狩猟社会、②農耕社会、③工業社会、④情報社会に続く、人類史上5番目の新しい社会で、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会のこと。	27
	通級指導教室	小・中学校の通常学級に在籍している言語障害、難聴、自閉症、情緒障害などの児童生徒に対して、各教科の指導は主として通常学級で行いつつ、一人一人の障害に応じた特別な指導を行う場のこと。	32・55
	適応指導教室	不登校の児童生徒を対象に、学校以外の場所や学校内のどこかに部屋を用意し、そこで学習の援助をしながら学校生活への復帰を支援することを目的に設置された場のこと。	41
	デジタルサイネージ	ディスプレイやタブレットなどの電子表示媒体を活用した情報発信システムのこと。	45
	デジタルデバイド	インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差のこと。	55

X 用語集

行	用語	解説	掲 載 ページ
た	デジタルリテラシー	デジタル技術を用いて安全かつ適切に情報にアクセスしたり、情報を管理、理解、統合、伝達、評価、作成したりする能力のこと。	27
	特別支援学級	障害のある児童生徒に対し、障害による学習上または生活上の困難を克服するために設置される学級のこと。	32
は	働き方改革	働く人々が、個々の事情に応じた多様で柔軟な働き方を自分で選択できるようにするための改革のこと。	24
	ハラスメント	相手の意に反する言葉や行動によって不快な思いをさせてしまうこと。	35
	放課後子供教室	子どもたちが放課後を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動ができるよう、地域住民等の参画を得て、放課後に児童を対象として、学習や体験・交流活動などを行う事業のこと。	54
	ポートフォリオ	学歴、スキル、実績、プロジェクトなどの経歴を包括的に示すもの。	30
	母集団	スポーツ少年団活動を支える母体となる集団のこと。子どもたちを財政面、労力面、精神面で支援するだけではなく、地域に住むすべての大人自身もスポーツや文化活動を楽しむことができるシステムを地域に形成しようとする重要な意味と役割ももつ。	61
ま	民俗文化財	衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋、その他の物件など人々が日常生活の中で生み出し、継承してきた有形・無形の伝承で人々の生活の推移を示すもの。	64
	無形文化財	演劇、音楽、工芸技術、その他の無形の文化的所産で、歴史上または芸術上価値の高いものの総称のこと。	64
や	ヤングケアラー	高齢、身体上、精神上の障害または疾病等により援助を必要とする親族、友人その他の身近な人に対して、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を行っている18歳未満の者のこと。	41
	有形文化財	建造物、工芸品、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料などの有形の文化的所産で、歴史上、芸術上、学術上価値の高いものの総称。	64
ら	ライフステージ	人間の一生における幼年期、児童期、青年期、壮年期、老年期などの段階のこと。	60
A	A L T	Assistant Language Teacher の略。外国語指導助手や英語指導補助を行う者のこと。	29
I	I C T	Information and Communication Technology の略。情報（インフォメーション）や通信（コミュニケーション）に関する技術の総称のこと。	21・22・ 26・27
L	L E D	Light Emitting Diode の略。「光る半導体」の略称のこと。	20
P	P T A	Parent and Teacher Association の略。各学校で組織された保護者と教職員による社会教育関係団体のこと。	31・39・ 50・52
S	S D G s	Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、17のゴール、169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている。	28

X 用語集

行	用語	解説	掲 載 ページ
S	S N S	Social Networking Service の略。インターネット上で、サービスに登録した利用者同士が交流でき、人と人がつながれるような場所を提供するサービスのこと。	45
T	T T 授業	複数の教職員がチームとなり、各教職員の特性を生かしながら、一つの子ども集団を対象に、指導の全部または一部について共同で責任を負い、協力して指導にあたる授業のこと。	29

桶川市教育委員会点検評価報告書

令和6年11月発行

発行 桶川市教育委員会

〒363-8501 埼玉県桶川市泉一丁目3番28号

TEL 048-786-3211 (代)

<https://www.city.okegawa.lg.jp>

